

基本計画書

| 基本計画 | | | | | | | | | |
|----------------------------------|---|-------------|----------|----------|------------|------------|----------|----------------------|--------------------|
| 事項 | 記入欄 | | | | | | | | 備考 |
| 計画の区分 | 学部の学科の設置 | | | | | | | | |
| フリガナ設置者 | ガッコウホウジン カナザワコウギョウダイガク 学校法人 金沢工業大学 | | | | | | | | |
| フリガナ大学の名称 | カナザワコウギョウダイガク 金沢工業大学 (Kanazawa Institute of Technology) | | | | | | | | |
| 大学本部の位置 | 石川県野々市市扇が丘7番1号 | | | | | | | | |
| 大学の目的 | 金沢工業大学は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める本学園の建学の精神並びに教育基本法及び学校教育法に基づき、工業に関する深い専門的教育を受け、教養と識見の豊かな人材を養成することを目的とするとともに、我が国の工業の発展と地域社会の開発に寄与するものとする。 | | | | | | | | |
| 新設学部等の目的 | 建築のエンジニアリング分野において、建築や都市の安全性や快適性の観点から、建築・都市の計画・実現能力を習得させること目的とする。具体的には、建築・都市の環境設備計画、構造計画及びその生産・維持管理ができる専門知識・技術を身につけた人材を主として養成する。さらには、急激な気候変動や多発する自然災害、ウェルビーイングなどに対応した次世代の建築エンジニアリングに関する知識・技術を修得し、持続可能な社会と環境を構築し運営できる人材の養成を目的とする。 | | | | | | | | |
| 新設学部等の概要 | 新設学部等の名称 | 修業年限 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 学位 | 学位の分野 | 開設時期及び開設年次 | 所在地 |
| | 建築学部 建築学科 | 年 | 人 | 年次人 | 人 | 学士(工学) | 工学関係 | 令和7年4月 第1年次 | 石川県野々市市 扇が丘7番1号 |
| | 計 | | 100 | - | 400 | | | | |
| 同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等) | 別紙のとおり | | | | | | | | |
| 教育課程 | 新設学部等の名称 | 開設する授業科目の総数 | | | | 卒業要件単位数 | | | |
| | 建築学科 | 講義 | 演習 | 実験・実習 | 計 | 124単位 | | | |
| | | 130科目 | 8科目 | 3科目 | 141科目 | | | | |
| 学部等の名称 | | 基幹教員 | | | | | 助手 | 基幹教員以外の教員 (助手を除く) | |
| | | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 | | | |
| 新設 | 建築学部 建築学科 | 11 (9) | 0 (0) | 2 (1) | 0 (0) | 13 (10) | 0 (0) | 125 (78) | |
| | a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 5 (3) | 0 (0) | 2 (1) | 0 (0) | 7 (4) | 7人 | | |
| | b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| | 小計 (a~b) | 5 (3) | 0 (0) | 2 (1) | 0 (0) | 7 (4) | | | |
| | c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| | d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く) | 6 (6) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 6 (6) | | | |
| | 計 (a~d) | 11 (9) | 0 (0) | 2 (1) | 0 (0) | 13 (10) | | | |
| 計 | 11 (9) | 0 (0) | 2 (1) | 0 (0) | 13 (10) | 0 (0) | | 125 (78) | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|----------|----------|----------|------------|------------|------------|---|---|
| 既 | 情報デザイン学部 経営情報学科 | 7 (6) | 3 (3) | 0 (0) | 0 (0) | 10 (9) | 0 (0) | 96 (62) | 大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人 |
| | a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの | 4 (4) | 2 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 6 (6) | | | |
| | b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | | | |
| | 小計（a～b） | 4 (4) | 3 (3) | 0 (0) | 0 (0) | 7 (7) | | | |
| | c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| | d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 3 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 3 (2) | | | |
| | 計（a～d） | 7 (6) | 3 (3) | 0 (0) | 0 (0) | 10 (9) | | | |
| | 情報デザイン学部 環境デザイン創成学科 | 7 (4) | 3 (2) | 3 (1) | 0 (0) | 13 (7) | 0 (0) | 80 (58) | 大学設置基準別 表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人 |
| | a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの | 2 (2) | 1 (1) | 2 (0) | 0 (0) | 5 (3) | | | |
| | b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 1 (1) | | | |
| | 小計（a～b） | 2 (2) | 1 (1) | 3 (1) | 0 (0) | 6 (4) | | | |
| | c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| | d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 5 (2) | 2 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 7 (3) | | | |
| | 計（a～d） | 7 (4) | 3 (2) | 3 (1) | 0 (0) | 13 (7) | | | |
| | メディア情報学部 メディア情報学科 | 6 (4) | 6 (5) | 3 (3) | 0 (0) | 15 (12) | 0 (0) | 113 (82) | 大学設置基準別 表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 8 人 |
| | a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの | 6 (4) | 3 (2) | 1 (1) | 0 (0) | 10 (7) | | | |
| | b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 2 (2) | 2 (2) | 0 (0) | 4 (4) | | | |
| | 小計（a～b） | 6 (4) | 5 (4) | 3 (3) | 0 (0) | 14 (11) | | | |
| | c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| | d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 0 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | | | |
| 計（a～d） | 6 (4) | 6 (5) | 3 (3) | 0 (0) | 15 (12) | | | | |
| メディア情報学部 心理情報デザイン学科 | 6 (5) | 4 (3) | 2 (1) | 0 (0) | 12 (9) | 0 (0) | 94 (69) | 大学設置基準別 表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人 | |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの | 4 (3) | 2 (2) | 2 (1) | 0 (0) | 8 (6) | | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く） | 2 (2) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 3 (3) | | | | |
| 小計（a～b） | 6 (5) | 3 (3) | 2 (1) | 0 (0) | 11 (9) | | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 0 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (0) | | | | |
| 計（a～d） | 6 (5) | 4 (3) | 2 (1) | 0 (0) | 12 (9) | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|------------|----------|----------|----------|------------|----------|-------------|---|
| 情報理工学部 情報工学科 | 10 (8) | 2 (2) | 1 (0) | 0 (0) | 13 (10) | 0 (0) | 106 (71) | 大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 8 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 6 (5) | 2 (2) | 1 (0) | 0 (0) | 9 (7) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | | | |
| 小計（a～b） | 7 (6) | 2 (2) | 1 (0) | 0 (0) | 10 (8) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 3 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 3 (2) | | | |
| 計（a～d） | 10 (8) | 2 (2) | 1 (0) | 0 (0) | 13 (10) | | | |
| 情報理工学部 知能情報システム学科 | 5 (4) | 6 (5) | 2 (2) | 0 (0) | 13 (11) | 0 (0) | 111 (76) | 大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 8 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 2 (2) | 6 (5) | 2 (2) | 0 (0) | 10 (9) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 小計（a～b） | 2 (2) | 6 (5) | 2 (2) | 0 (0) | 10 (9) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 3 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 3 (2) | | | |
| 計（a～d） | 5 (4) | 6 (5) | 2 (2) | 0 (0) | 13 (11) | | | |
| 情報理工学部 ロボティクス学科 | 11 (11) | 2 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 13 (13) | 0 (0) | 112 (81) | 大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 10 (10) | 2 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 12 (12) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 小計（a～b） | 10 (10) | 2 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 12 (12) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | | | |
| 計（a～d） | 11 (11) | 2 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 13 (13) | | | |
| バイオ・化学部 環境・応用化学科 | 10 (10) | 2 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 12 (12) | 0 (0) | 94 (69) | 大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 10 (10) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 11 (11) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 小計（a～b） | 10 (10) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 11 (11) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 0 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | | | |
| 計（a～d） | 10 (10) | 2 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 12 (12) | | | |

| | | | | | | | | |
|---|-----------|----------|----------|----------|-----------|----------|-------------|--|
| バイオ・化学部 生命・応用バイオ学科 | 7 (7) | 1 (1) | 1 (1) | 0 (0) | 9 (9) | 0 (0) | 94 (69) | 大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 7 (7) | 1 (1) | 1 (1) | 0 (0) | 9 (9) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 小計（a～b） | 7 (7) | 1 (1) | 1 (1) | 0 (0) | 9 (9) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 計（a～d） | 7 (7) | 1 (1) | 1 (1) | 0 (0) | 9 (9) | | | |
| 工学部 機械工学科 | 13 (8) | 1 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 15 (9) | 0 (0) | 115 (79) | 大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 8 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 7 (6) | 0 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 8 (7) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 小計（a～b） | 7 (6) | 0 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 8 (7) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 6 (2) | 1 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 7 (2) | | | |
| 計（a～d） | 13 (8) | 1 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 15 (9) | | | |
| 工学部 先進機械システム工学科 | 13 (8) | 2 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 15 (9) | 0 (0) | 105 (68) | 大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 6 (5) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 7 (6) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 小計（a～b） | 6 (5) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 7 (6) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 7 (3) | 1 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 8 (3) | | | |
| 計（a～d） | 13 (8) | 2 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 15 (9) | | | |
| 工学部 航空宇宙工学科 | 5 (5) | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) | 8 (8) | 0 (0) | 94 (69) | 大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 5 (5) | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) | 8 (8) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 小計（a～b） | 5 (5) | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) | 8 (8) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 計（a～d） | 5 (5) | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) | 8 (8) | | | |

設

| | | | | | | | | |
|---|-----------|----------|----------|----------|------------|----------|-------------|---|
| 工学部 電気エネルギーシステム工学科 | 9 (7) | 2 (2) | 2 (1) | 0 (0) | 13 (10) | 0 (0) | 110 (75) | 大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 7 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの | 5 (4) | 2 (2) | 1 (0) | 0 (0) | 8 (6) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 小計（a～b） | 5 (4) | 2 (2) | 1 (0) | 0 (0) | 8 (6) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 4 (3) | 0 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 5 (4) | | | |
| 計（a～d） | 9 (7) | 2 (2) | 2 (1) | 0 (0) | 13 (10) | | | |
| 工学部 電子情報システム工学科 | 12 (6) | 2 (1) | 1 (1) | 0 (0) | 15 (8) | 0 (0) | 109 (75) | 大学設置基準別 表第一に定め る基幹教員数の 四分の三の数 7 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの | 8 (3) | 2 (1) | 1 (1) | 0 (0) | 11 (5) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く） | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | | | |
| 小計（a～b） | 9 (4) | 2 (1) | 1 (1) | 0 (0) | 12 (6) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 3 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 3 (2) | | | |
| 計（a～d） | 12 (6) | 2 (1) | 1 (1) | 0 (0) | 15 (8) | | | |
| 工学部 環境土木工学科 | 6 (6) | 4 (4) | 0 (0) | 0 (0) | 10 (10) | 0 (0) | 94 (69) | 大学設置基準別 表第一に定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの | 6 (6) | 3 (3) | 0 (0) | 0 (0) | 9 (9) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 小計（a～b） | 6 (6) | 3 (3) | 0 (0) | 0 (0) | 9 (9) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 0 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | | | |
| 計（a～d） | 6 (6) | 4 (4) | 0 (0) | 0 (0) | 10 (10) | | | |
| 建築学部 建築デザイン学科 | 10 (8) | 0 (0) | 3 (3) | 0 (0) | 13 (11) | 0 (0) | 122 (78) | 大学設置基準別 表第一に定め る基幹教員数の 四分の三の数 7 人 |
| a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの | 4 (2) | 0 (0) | 3 (3) | 0 (0) | 7 (5) | | | |
| b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| 小計（a～b） | 4 (2) | 0 (0) | 3 (3) | 0 (0) | 7 (5) | | | |
| c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | |
| d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 6 (6) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 6 (6) | | | |
| 計（a～d） | 10 (8) | 0 (0) | 3 (3) | 0 (0) | 13 (11) | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--------------|------------|------------|----------|--------------|----------|------------|----------|----------|
| 基礎教育部 修学基礎教育課程 | 15 (15) | 8 (8) | 2 (2) | 2 (2) | 27 (27) | 0 (0) | 0 (0) | | |
| a. 基礎教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | / | / | | |
| b. 基礎教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 15 (15) | 8 (8) | 2 (2) | 2 (2) | 27 (27) | | | | |
| 小計（a～b） | 15 (15) | 8 (8) | 2 (2) | 2 (2) | 27 (27) | | | | |
| c. 基礎教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | | |
| d. 基礎教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | | |
| 計（a～d） | 15 (15) | 8 (8) | 2 (2) | 2 (2) | 27 (27) | | | | |
| 基礎教育部 英語教育課程 | 4 (4) | 2 (2) | 13 (13) | 0 (0) | 19 (19) | | | 0 (0) | 0 (0) |
| a. 基礎教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | / | / |
| b. 基礎教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 4 (4) | 2 (2) | 13 (13) | 0 (0) | 19 (19) | | | | |
| 小計（a～b） | 4 (4) | 2 (2) | 13 (13) | 0 (0) | 19 (19) | | | | |
| c. 基礎教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | | |
| d. 基礎教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | | |
| 計（a～d） | 4 (4) | 2 (2) | 13 (13) | 0 (0) | 19 (19) | | | | |
| 基礎教育部 数理・データサイエンス・AI教育課程 | 6 (6) | 2 (2) | 1 (1) | 0 (0) | 9 (9) | 0 (0) | 0 (0) | | |
| a. 基礎教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | / | / | | |
| b. 基礎教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 6 (6) | 2 (2) | 1 (1) | 0 (0) | 9 (9) | | | | |
| 小計（a～b） | 6 (6) | 2 (2) | 1 (1) | 0 (0) | 9 (9) | | | | |
| c. 基礎教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | | |
| d. 基礎教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | | |
| 計（a～d） | 6 (6) | 2 (2) | 1 (1) | 0 (0) | 9 (9) | | | | |
| 基礎教育部 プロジェクトデザイン基礎教育課程 | 2 (2) | 6 (6) | 2 (2) | 0 (0) | 10 (10) | | | 0 (0) | 0 (0) |
| a. 基礎教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | / | / |
| b. 基礎教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く） | 2 (2) | 6 (6) | 2 (2) | 0 (0) | 10 (10) | | | | |
| 小計（a～b） | 2 (2) | 6 (6) | 2 (2) | 0 (0) | 10 (10) | | | | |
| c. 基礎教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | | |
| d. 基礎教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く） | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | | | | |
| 計（a～d） | 2 (2) | 6 (6) | 2 (2) | 0 (0) | 10 (10) | | | | |
| 分 計 | 140 (117) | 56 (50) | 36 (31) | 3 (3) | 235 (201) | 0 (0) | 55 (24) | | |
| 合 計 | 151 (126) | 56 (50) | 38 (32) | 3 (3) | 248 (211) | 0 (0) | 55 (24) | | |

| 職 種 | | 専 属 | | そ の 他 | | 計 | | |
|-------------------------------|-------------------|---|------------------------------------|----------------------------|--------------------------|------------------------------|----------|---------|
| 事 務 職 員 | | 205 (205) | | 91 (91) | | 296 (296) | | |
| 技 術 職 員 | | 36 (36) | | 4 (4) | | 40 (40) | | |
| 図 書 館 職 員 | | 12 (12) | | 10 (10) | | 22 (22) | | |
| そ の 他 の 職 員 | | 0 (0) | | 0 (0) | | 0 (0) | | |
| 指 導 補 助 者 | | 0 (0) | | 0 (0) | | 0 (0) | | |
| 計 | | 253 (253) | | 105 (105) | | 358 (358) | | |
| 校 地 等 | 区 分 | 専 用 | 共 用 | 共用する他の 学校等の専用 | | 計 | | |
| | 校 舎 敷 地 | 81,694.00㎡ | 439,887.39㎡ | 11,602.00㎡ | | 533,183.39㎡ | | |
| | そ の 他 | 76,987.00㎡ | 36,880.12㎡ | 0㎡ | | 113,867.12㎡ | | |
| | 合 計 | 158,681.00㎡ | 476,767.51㎡ | 11,602.00㎡ | | 647,050.51㎡ | | |
| 校 舎 | | 専 用 | 共 用 | 共用する他の 学校等の専用 | | 計 | | |
| | | 185,385.25㎡ (185,385.25㎡) | 19,475.45㎡ (19,475.45㎡) | 10,509.63㎡ (10,509.63㎡) | | 215,370.33㎡ (215,370.33㎡) | | |
| 教 室 ・ 教 員 研 究 室 | | 教 室 | 403室 | 教 員 研 究 室 | 306室 | | | |
| 図 書 ・ 設 備 | 新設学部等の名称 | 図 書 〔うち外国書〕 冊 | 電子図書 〔うち外国書〕 冊 | 学術雑誌 〔うち外国書〕 種 | 電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種 | 機 械 ・ 器 具 点 | 標 本 点 | |
| | 建築学科 | 586,068 [133,307] (586,068 [133,307]) | 24,513 [1,524] (24,513 [1,524]) | 666 [298] (666 [298]) | 380 [290] (380 [290]) | 11,953 (11,953) | 2 (2) | |
| | 計 | 586,068 [133,307] (586,068 [133,307]) | 24,513 [1,524] (24,513 [1,524]) | 666 [298] (666 [298]) | 380 [290] (380 [290]) | 11,953 (11,953) | 2 (2) | |
| | | | | | | | | |
| ス ポ ー ツ 施 設 等 | | ス ポ ー ツ 施 設 | | 講 堂 | | 厚 生 補 導 施 設 | | |
| | | 4,714㎡ | | 0㎡ | | 11,844.19㎡ | | |
| 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要 | 区 分 | 開 設 前 年 度 | 第 1 年 次 | 第 2 年 次 | 第 3 年 次 | 第 4 年 次 | 第 5 年 次 | 第 6 年 次 |
| | | 教員 1 人 当 り 研 究 費 等 | 1,140千円 | 1,140千円 | 1,140千円 | 1,140千円 | | |
| | 共 同 研 究 費 等 | 2,900千円 | 2,900千円 | 2,900千円 | 2,900千円 | | | |
| | 図 書 購 入 費 | 8,030千円 | 8,030千円 | 8,030千円 | 8,030千円 | | | |
| | 設 備 購 入 費 | 5,810千円 | 5,810千円 | 5,810千円 | 5,810千円 | | | |
| | 学 生 1 人 当 り 納 付 金 | 第 1 年 次 | 第 2 年 次 | 第 3 年 次 | 第 4 年 次 | 第 5 年 次 | 第 6 年 次 | |
| | | 1,715千円 | 1,515千円 | 1,515千円 | 1,515千円 | | | |
| 学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要 | | 私 立 学 校 等 経 常 費 補 助 金、資 産 運 用 収 入、寄 付 金 収 入、補 助 金 収 入、雑 収 入 等 | | | | | | |

| 大学等の名称 | 金沢工業大学 | | | | | | | 所在地 | |
|----------------------|--------|------|------|-------|---------------------------|--------|---------|--------------------|--------------|
| | 学部等の名称 | 修業年限 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 学位又は称号 | 収容定員充足率 | | |
| | 年 | 人 | 年次人 | 人 | | 倍 | | | |
| 工学部 | | | | | | | | | |
| 機械工学科 | 4 | - | - | - | 学士(工学) | - | 昭和40年度 | 石川県野々市市扇が丘7番1号 | 令和6年より学生募集停止 |
| 航空システム工学科 | 4 | 60 | - | 240 | 学士(工学) | 0.60 | 平成16年度 | 同上 | |
| ロボティクス学科 | 4 | - | - | - | 学士(工学) | - | 平成16年度 | 同上 | 令和6年より学生募集停止 |
| 電気電子工学科 | 4 | - | - | - | 学士(工学) | - | 平成30年度 | 同上 | 令和6年より学生募集停止 |
| 情報工学科 | 4 | - | - | - | 学士(工学) | - | 平成24年度 | 同上 | 令和6年より学生募集停止 |
| 環境土木工学科 | 4 | 100 | - | 400 | 学士(工学) | 0.82 | 平成30年度 | 同上 | |
| 情報フロンティア学部 | | | | | | | | | |
| メディア情報学科 | 4 | - | - | - | 学士(情報学) | - | 平成16年度 | 同上 | 令和6年より学生募集停止 |
| 経営情報学科 | 4 | - | - | - | 学士(情報学) | - | 平成16年度 | 同上 | 令和6年より学生募集停止 |
| 心理科学科 | 4 | - | - | - | 学士(情報学) | - | 平成16年度 | 同上 | 令和6年より学生募集停止 |
| 建築学部 | | | | | | | | | |
| 建築学科 | 4 | - | - | - | 学士(工学) | - | 平成30年度 | 同上 | 令和6年より学生募集停止 |
| バイオ・化学部 | | | | | | | | | |
| 応用化学科 | 4 | 80 | - | 320 | 学士(理工学) | 0.84 | 平成20年度 | 同上 | |
| 応用バイオ学科 | 4 | 80 | - | 320 | 学士(理工学) | 0.83 | 平成20年度 | 同上 | |
| 工学研究科博士前期(修士)課程 | | | | | | | | | |
| 機械工学専攻 | 2 | 18 | - | 36 | 修士(工学) | 4.22 | 昭和53年度 | 石川県野々市市扇が丘7番1号 | |
| 環境土木工学専攻 | 2 | 10 | - | 20 | 修士(工学) | 1.20 | 昭和53年度 | 同上 | |
| 情報工学専攻 | 2 | 18 | - | 36 | 修士(工学) | 1.08 | 昭和53年度 | 同上 | |
| 電気電子工学専攻 | 2 | 18 | - | 36 | 修士(工学) | 3.02 | 昭和55年度 | 同上 | |
| システム設計工学専攻 | 2 | 8 | - | 16 | 修士(工学) | 1.37 | 平成2年度 | 同上 | |
| バイオ・化学専攻 | 2 | 18 | - | 36 | 修士(理工学) | 1.00 | 平成2年度 | 同上 | |
| 建築学専攻 | 2 | 16 | - | 32 | 修士(工学) | 1.06 | 昭和55年度 | 同上 | |
| 高信頼ものづくり専攻(2年生コース) | 2 | 3 | - | 6 | 修士(工学) | 2.33 | 平成19年度 | 同上 | |
| 高信頼ものづくり専攻(1年生コース) | 1 | 4 | - | 4 | 修士(工学) | 0.00 | 平成19年度 | 同上 | |
| ビジネスアーキテクト専攻 | 2 | 6 | - | 12 | 修士(工学) | 0.58 | 昭和57年度 | 同上 | |
| 心理科学研究科修士課程 | | | | | | | | | |
| 臨床心理学専攻 | 2 | 6 | - | 12 | 修士(心理学) | 1.00 | 平成16年度 | 石川県野々市市扇が丘7番1号 | |
| イノベーションマネジメント研究科修士課程 | | | | | | | | | |
| イノベーションマネジメント専攻 | 1 | 40 | - | 40 | 修士(経営管理)又は、修士(知的財産マネジメント) | 1.65 | 平成28年度 | 東京都港区愛宕1-3-4愛宕東洋ビル | |

既設大学等の状況

| | | | | | | | | | | | | |
|-------------|----------|------|-------|------|-----------------|---------|--------|------------------|---------------|--|--|--|
| 工学研究科博士後期課程 | | | | | | | | | | | | |
| 機械工学専攻 | 3 | 5 | - | 15 | 博士（工学） | 0.46 | 昭和55年度 | 石川県野々市市扇が丘7番1号 | | | | |
| 環境土木工学専攻 | 3 | 5 | - | 15 | 博士（工学） | 0.26 | 昭和55年度 | 同上 | | | | |
| 情報工学専攻 | 3 | 5 | - | 15 | 博士（工学） | 0.20 | 昭和55年度 | 同上 | | | | |
| 電気電子工学専攻 | 3 | 6 | - | 18 | 博士（工学） | 0.22 | 昭和57年度 | 同上 | | | | |
| システム設計工学専攻 | 3 | 6 | - | 18 | 博士（工学）又は、博士（学術） | 0.11 | 平成2年度 | 同上 | | | | |
| バイオ・化学専攻 | 3 | 6 | - | 18 | 博士（理工学） | 0.00 | 平成2年度 | 同上 | | | | |
| 建築学専攻 | 3 | 5 | - | 15 | 博士（工学） | 0.00 | 平成15年度 | 同上 | | | | |
| 高信頼ものづくり専攻 | 3 | 5 | - | 15 | 博士（工学） | 0.06 | 平成20年度 | 同上 | | | | |
| 大 学 等 の 名 称 | 国際高等専門学校 | | | | | | | | | | | |
| 学 部 等 の 名 称 | 修業年限 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 学位又は称号 | 収容定員充足率 | 開設年度 | 所在地 | | | | |
| 国際理工学科 | 年 | 人 | 年次人 | 人 | 准学士（工学） | 0.32 | 平成30年度 | 石川県金沢市久安2丁目207番地 | 令和5年度入学定員10名減 | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

| 教 育 課 程 等 の 概 要 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---------------------------|----------|--------|-----|----|----|------|----|-------|----------|-----|----|----|----|----|----------------------|
| (建築学部 建築学科) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 主要授業科目 | 単位数 | | | 授業形態 | | | 基幹教員等の配置 | | | | | 備考 | |
| | | | | 必修 | 選択 | 自由 | 講義 | 演習 | 実験・実習 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | | 基幹（助手を除く） 教員以外の教員 |
| 修学基礎 | 修学基礎A | 1前 | - | 2 | | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | 修学基礎B | 1後 | - | 2 | | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | 小計（2科目） | - | - | 4 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | 2 | | |
| 人間形成基礎科目 | 実践ウェルビーイング | 1前・後 | - | 1 | | | ○ | | | | | | | 3 | | |
| | 技術者と持続可能社会 | 2前・後 | - | 2 | | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | 日本学（日本と日本人）A | 2前・後 | - | 1 | | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | 日本学（日本と日本人）B | 2前・後 | - | 1 | | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | 科学技術者倫理 | 3前・後 | - | 2 | | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | 小計（5科目） | - | - | 7 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | 9 | | |
| | ボイスト | 健康・体力づくり | 1前 | - | 1 | | | | | ○ | | | | | 1 | |
| | | 生涯スポーツ演習 | 1後 | - | 1 | | | | | ○ | | | | | 7 | |
| | | 小計（2科目） | - | - | 2 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | 7 | |
| | 自然問と | 人間と自然 | 1前 | - | 0 | | | ○ | | | | | | | 1 | |
| 小計（1科目） | | - | - | 0 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | | |
| 英語科目 | イングリッシュトピックス1 | 1前 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | イングリッシュトピックス2 | 1後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | イングリッシュトピックス3 | 1・2前 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | イングリッシュトピックス4 | 1・2後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | イングリッシュトピックス5 | 1・2前 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | ビジネスコミュニケーション1 | 1・2後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 3 | | |
| | ビジネスコミュニケーション2 | 2前 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | アカデミックリーディング1 | 1・2後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | アカデミックリーディング2 | 2前 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | ライティングベーシックス | 1・2後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | アカデミックプレゼンテーション | 2前 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | STEM イングリッシュ | 1・2後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | イングリッシュセミナー | 2前 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | TOEIC 初級 | 1後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 3 | | |
| | TOEIC 中級 | 1後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | インテンシブイングリッシュ | 1後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| 小計（16科目） | - | - | 0 | 32 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | 14 | | |
| 英語・上級 | English Academic Writing1 | 1前 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | English Academic Writing2 | 1後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | 小計（2科目） | - | - | 0 | 4 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | | |
| 数理基礎科目 | 技術者のための数理Ⅰ | 1前 | - | 2 | | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | 技術者のための数理Ⅱ | 1前 | - | 2 | | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | 線形代数学 | 1後 | - | 2 | | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | データサイエンス物理 | 1後・2前・後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | アドバンスト数理A | 1後・2前・後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | アドバンスト数理B | 1後・2前・後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | 技術者のための数理Ⅲ | 1後・2前・後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| | 技術者のための統計 | 1後・2前・後 | - | | 2 | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | AI基礎 | 1後 | - | 1 | | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | データサイエンス基礎Ⅰ | 1後 | - | 1 | | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | データサイエンス基礎Ⅱ | 2前 | - | 1 | | | ○ | | | | | | | 1 | | |
| 小計（11科目） | - | - | 9 | 10 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | 13 | | |
| 基礎プロジェクト科目 | プロジェクトデザイン入門（実験） | 1前 | - | 2 | | | | | ○ | | 1 | | | 2 | | |
| | プロジェクトデザインⅠ | 1後 | - | 2 | | | | | ○ | | | | | 11 | | |
| | プロジェクトデザインⅡ | 2前 | - | 2 | | | | | ○ | | | | | 3 | | |
| | プロジェクトデザイン実践（実験） | 2後 | - | 2 | | | | | | ○ | 3 | 1 | | | | |
| | ICT入門 | 1前 | - | 1 | | | | | ○ | | | | | 3 | | |
| | データサイエンス入門 | 1前 | - | 1 | | | | | ○ | | | | | 3 | | |
| 小計（6科目） | - | - | 10 | 0 | 0 | - | - | - | - | 3 | 1 | | 15 | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------|--------|---|----|-----------|----|-------------|------|----|------|--|--|-----|-------|
| | 建築計画 | 2後 | ○ | 2 | | ○ | | | 1 | | | | 1 | |
| | 建築材料 | 2後 | ○ | 2 | | ○ | | | 3 | | | | | オムニバス |
| | 建築設計演習Ⅱ | 2後 | ○ | 4 | | ○ | | | 3 | | | | 12 | |
| | 建築構造計画 | 2後 | ○ | 2 | | ○ | | | 1 | 1 | | | | オムニバス |
| | 建築設備学 | 2後 | ○ | 2 | | ○ | | | 1 | | | | | |
| | 建築施工 | 3前 | ○ | 2 | | ○ | | | 1 | | | | | |
| | 建築エンジニアリング情報演習Ⅱ | 3前 | ○ | | 2 | ○ | | | 3 | | | | 2 | オムニバス |
| | 鉄筋コンクリート構造 | 3前 | ○ | | 2 | ○ | | | 1 | | | | | |
| | 鉄骨構造 | 3前 | ○ | | 2 | ○ | | | 1 | | | | | |
| | 建築環境設計Ⅰ | 3前 | ○ | | 2 | ○ | | | 2 | | | | | オムニバス |
| | 建築環境学Ⅲ | 3前 | ○ | | 2 | ○ | | | 1 | | | | | |
| | 都市デザイン | 3前 | - | | 2 | ○ | | | 1 | | | | 1 | オムニバス |
| | 建築デザイン論 | 3前 | - | | 2 | ○ | | | | | | | 1 | |
| | 建築法規 | 3後 | ○ | 2 | | ○ | | | 1 | | | | 1 | オムニバス |
| | サステナブル都市・建築 | 3後 | ○ | | 2 | ○ | | | 1 | 1 | | | 1 | オムニバス |
| | 建築構造設計 | 3後 | ○ | | 2 | ○ | | | 2 | 1 | | | | オムニバス |
| | 建築安全工学 | 3後 | ○ | | 2 | ○ | | | 1 | 1 | | | | オムニバス |
| | 建築環境設計Ⅱ | 3後 | ○ | | 2 | ○ | | | 1 | | | | | |
| | 都市・まちづくり | 3後 | - | | 2 | ○ | | | 2 | | | | 1 | オムニバス |
| | 建築再生論 | 3後 | - | | 2 | ○ | | | | | | | 1 | |
| | 建築総合演習A | 3前 | ○ | 3 | | | ○ | | 6 | 1 | | | | |
| | 建築総合演習B | 3後 | ○ | 3 | | | ○ | | 6 | 2 | | | | |
| | 小計（37科目） | - | - | 49 | 30 | 0 | - | | 11 | 2 | | | 20 | |
| 専門プロジェクト | イノベーション基礎 | 3前 | ○ | 1 | | ○ | | | 7 | 2 | | | | オムニバス |
| | 専門ゼミ | 3後 | ○ | 1 | | ○ | | | 7 | 2 | | | | |
| | プロジェクトデザインⅢ | 4通 | ○ | 8 | | ○ | | | 7 | 2 | | | | |
| | 小計（3科目） | - | - | 10 | 0 | 0 | - | | 7 | 2 | | | | |
| その他 | 進路セミナーⅠ | 3前 | - | | | 1 | ○ | | 3 | | | | | オムニバス |
| | 進路セミナーⅡ | 3後 | - | | | 1 | ○ | | 5 | | | | | オムニバス |
| | 小計（2科目） | - | - | 0 | 0 | 2 | - | | 5 | | | | | |
| 合計（141科目） | | - | - | 91 | 131 | 42 | - | | 11 | 2 | | | 125 | |
| 学位又は称号 | | 学士（工学） | | | 学位又は学科の分野 | | | 工学関係 | | | | | | |
| 卒業・修了要件及び履修方法 | | | | | | | 授業期間等 | | | | | | | |
| 必修科目91単位（修学基礎科目4単位、人間形成基礎科目9単位、数理基礎科目9単位、基礎プロジェクト科目10単位、専門科目49単位、専門プロジェクト10単位）、数理基礎科目の選択科目から2単位以上、英語科目8単位以上、リベラルアーツ系科目12単位以上、専門科目の選択科目から11単位以上を修得し、124単位以上を修得すること （履修科目の登録の上限：学期24単位、年間48単位） なお、専門科目の選択科目のうち、建築設備総論、建築エンジニアリング情報演習Ⅱ、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、建築環境設計Ⅰ、建築環境学Ⅲ、サステナブル都市・建築、建築構造設計、建築安全工学、建築環境設計Ⅱから5科目（10単位）以上を選択必修とする。 | | | | | | | 1学年の学期区分 | | | 2学期 | | | | |
| | | | | | | | 1学期の授業期間 | | | 15週 | | | | |
| | | | | | | | 1時限の授業の標準時間 | | | 100分 | | | | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | | |
|---------------|--------------|--------|--|----|
| (建築学部 建築学科) | | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 主要授業科目 | 講義等の内容 | 備考 |
| 修学基礎科目 | 修学基礎A | - | 本学での学習環境を把握し、学業継続を妨げる生活リスクを理解した上で、よりよい学習と生活のための計画を立てることができる。さらに、その計画のもとで自己管理を行い、学習に意欲的に取り組むことができる。また、共同の重要性も認識し、実践することができる。本学学生に期待される学習と生活に取り組む適切な姿勢を「学修支援システム」などを活用して身につけることができる。本学の様々な授業形態や学習スタイルを理解し、その基礎を身につけることができる。 | |
| | 修学基礎B | - | 学習や生活に取り組む態度と方法の重要性をポートフォリオの作成やグループ討議などを通して認識し、積極的かつ継続的に行動することができる。キャリアデザインの重要性を理解し、在学中に身につけるべき能力について考える。自分の「強み」を把握し、自らのキャリアデザインの実現に向けて主体的に行動することができる。「社会」の状況を踏まえたリサーチ・ペーパーの作成などを通じ、論理的な文章を作成する上で必要な知識やスキルの基礎を身につけることができる。 | |
| 人間形成基礎科目 | 実践ウェルビーイング | - | この授業の教育目標は、受講生が自分の人生を前向きにとらえ、意味のある目的を持って生きていくことを促進することである。対人コミュニケーションスキルの訓練を含む多くのポジティブエクササイズが用意されている。受講生はこれらのエクササイズに積極的に取り組むことが期待される。これらのエクササイズは以下を達成するための基本的な要素を提供する。すなわち、受講生が自らのウェルビーイング（幸福感）を意識し、意味のある人生の目標を見出し、多様性の世界で自分を探求していくことである。 | |
| | 技術者と持続可能社会 | - | 社会における会社などの企業で、充実した業務を推進するために必要と思われるSDGsなど、持続可能社会の動向や企業の役割と、そこで働く技術者の責任・やりがいなどを理解する。そして、経営の基本知識と研究開発・生産のプロセスなど技術者の仕事に関連する事柄を学び、社会には多岐にわたる業界があり、広い分野の多様な職種で技術者は活躍していることを理解する。なお、グループ討議・発表を通して、自分で調査した項目の意見交換により、技術者の仕事について理解を深め、発展する社会で活躍するために、イノベーションの事例を学ぶ。 | |
| | 日本学（日本と日本人）A | - | 日本における歴史上の人物の生涯を学ぶことで、その生き方・考え方を知り、それらを通して日本人の特質・行動規範などについて理解し、今後の自身の問題と照らし合わせて考える。さらに、各種神話や建国伝承を学ぶことで、多様な価値観の存在を知るとともに、日本人の特質を考える。併せて「読む・聞く・考える・書く」といった基礎的能力の向上を図る。 | |
| | 日本学（日本と日本人）B | - | 日本の歴史・文化・伝統に対する理解を深めつつ、日本および日本人の特質について様々な角度から考える。一方、行動する技術者、ひいては国際性豊かな広い視野をもつ人間となるための前提として、諸外国のもつ多様な文化・価値観にも眼向け、日本と異なる歴史や文化・伝統を公平に評価できる真摯な姿勢の大切さを学ぶ。これらのことを通じて、「読む・書く・聞く・話す・考える」といった基礎的能力の向上を図る。 | |
| | 科学技術者倫理 | - | 科学技術がグローバル化の進む今日の社会および環境に与える影響について考察し、科学技術の目的・役割と社会との相互作用についての理解を深める。また、科学技術者が専門職として担う倫理的・社会的責任を検討する。さらに、実務を行う上で直面する倫理的な問題を検討し、それらを解決する問題解決能力の向上を図る。以上の学習を通して、「科学技術者倫理」が単に規範の遵守ではなく、価値のバランスを取りながら「自らがなすべき行動を設計する」という創造的な知的営みであることを学ぶ。 | |
| 生涯スポーツ | 健康・体力づくり | - | 生涯にわたり健康で豊かな人生を営むために、生活習慣病や健康・体力づくりに関する知識、自己の健康・体力を測定・分析する方法の学習を通して、個人の状況に応じた運動処方（トレーニングプログラム）を作成できるようになる。また、健康・体力の自己管理の重要性を理解し、実践できるようになる。さらに、学生生活に潜む様々なリスクの理解や、これらの学習活動を通じて、協調性やリーダーシップ、規則を守るなどの基本的な事柄を体得する。 | |

| | | | | | |
|------|-------|-----------------|---|---|--|
| | | 生涯スポーツ演習 | - | スポーツの基礎技能習得をねらいとする学習活動を通じて、生涯にわたるスポーツを楽しむこと、スポーツ活動を自主的・主体的に計画・実行（実践）・評価・改善するための知識や能力や社会（学生）生活を営むうえで必要な事柄（ルールと規律を守る心、仲間に対する敬意と思いやりの心、チャレンジ精神、リーダーシップ・フォロワーシップ、責任感、安全に対する意識、コミュニケーション能力など）を身につけることができるようになる。 | |
| | 人間と自然 | 人間と自然 | - | グループ活動を通して、協同する大切さを理解し、他者の意見の根拠を考え自己の考えと比較し思考する姿勢を身につけることができる。科学技術者に求められる倫理観について考え続ける大切さを学び、研究施設の見学や、教職員及びクラスメートとの会話を通して、学びの広がりや深まりを理解することができる。 | |
| 英語科目 | 英語 | イングリッシュトピックス 1 | - | 日常生活・社会・世界などのトピックに関して英語でコミュニケーションを取る能力を修得する。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、授業内での会話や、文章の読み書きに应用する。さらに、自律して英語を学習するための効果的な学習法やテクニックを身につける。 | |
| | | イングリッシュトピックス 2 | - | 日常生活・社会・世界などのトピックに関して英語でコミュニケーションを取る能力を修得するとともに定着を図る。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、授業内での会話や、文章の読み書きに应用する。さらに、自律して英語を学習するための効果的な学習法やテクニックを身につける。 | |
| | | イングリッシュトピックス 3 | - | 日常生活・環境・テクノロジー・社会変容などのトピックに関して英語でコミュニケーションをとる能力を修得する。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、会話や討論、文章の読み書きに应用する。さらに、自律して英語を学習するための効果的な学習法やテクニックを身につける。 | |
| | | イングリッシュトピックス 4 | - | 日常生活・環境・テクノロジー・社会変容などのトピックに関して英語でコミュニケーションをとる能力を修得するとともに、さらなる定着を図る。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、授業内での会話や討論、文章の読み書きに应用する。さらに、英語学習に活用できる学習法やテクニックを身につける。 | |
| | | イングリッシュトピックス 5 | - | 社会・科学・文化に関するトピックを用いて、英語でコミュニケーションをとる能力を修得するとともに、さらなる定着を図る。トピックに関する英語の構文及び語彙を学習し、授業内での会話や討論、さらに文章の読み書きに应用できるようにする。また、英語学習に活用できる学習法やテクニックを身につける。 | |
| | | ビジネスコミュニケーション 1 | - | ビジネスの場で使用される英語を学習する。会社という場面設定において、英語がどのように使われるかを学習し、ビジネス上のタスクを通して、ビジネスに関係する語彙、表現などを効果的に使えるように学ぶ。授業中のグループワークでスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの総合的な4技能に加え、プレゼンテーション、ディスカッション、インタビュー、ロールプレイなどでビジネスの場に必要なスキルを修得する。 | |
| | | ビジネスコミュニケーション 2 | - | ビジネスの場で使用される英語を学習する。会社という場面設定において、英語がどのように使われるかを学習し、ビジネス上のタスクを通して、ビジネスに関係する語彙、表現などを効果的に使えるように学ぶ。授業中のグループワークでスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの総合的な4技能に加え、プレゼンテーション、ディスカッション、インタビュー、ロールプレイなどでビジネスの場に必要なスキルを修得する。タスクの内容は「ビジネスコミュニケーション 1」と異なる。 | |
| | | アカデミックリーディング 1 | - | 中級レベルの英語で書かれた時事問題やさまざまな話題を読み、それについて英語でコミュニケーションを取る能力を修得することを目標とする。文章を深く正しく理解し、その内容について話し合ったり、意見を交換したりできるようにする。リーディングに必要な学習法やスキルを身につける。 | |
| | | アカデミックリーディング 2 | - | 中級レベルの英語で書かれた時事問題やさまざまな話題を読み、それについて英語でコミュニケーションをとる能力を修得することを目標とし、さらなる能力の定着を図る。文章を深く正しく理解し、その内容について話し合ったり、意見を交換したりできるようにする。リーディングに必要な学習法やスキルを身につける。 | |

| | | | | |
|--------|----------------------------|---|--|--|
| | ライティングベーシックス | - | 基礎的なライティングスキルを身につけることを目標とする。単語の品詞、基礎文法、文章の構成を実践的に学ぶ。ライティングに使用されるメカニクス（スペル、大文字・小文字、句読点、文法等）やフォーマットも修得する。 | |
| | アカデミックプレゼンテーション | - | プレゼンテーションに必要な言語・非言語的スキルを学び、アカデミックな英語を用いたプレゼンテーションスキルを修得することを目標とする。図や表を的確に説明する方法を学ぶ。また、効果的な発表原稿の作成方法を修得する。 | |
| | STEMイングリッシュ | - | STEM (Science, Technology, Engineering, and Mathematics) 分野の英語を使って4技能（読む、書く、話す、聞く）を修得する。STEM分野での課題発見、解決の力を身につけることを目標とする。取り上げた課題について詳しく調べ、ディスカッションやプレゼンテーションを通して自分の意見や考えを英語で伝える力を修得する。 | |
| | イングリッシュセミナー | - | 地域社会で起こっている様々な問題を発見し、解決する方法を英語で学ぶ。取り上げた課題について詳しく調べ、グループワークやディスカッションを通して、自分の意見や考えを伝える力を修得する。外国人とのインタビューも実施する。 | |
| | TOEIC 初級 | - | TOEIC®Listening & Reading 受験のための基礎コースである。基礎的な文法と語彙の演習・課題を通して、テストの概要と構成を理解する。TOEIC®スコア伸長のための各自にあった学習方法を身につける。 | |
| | TOEIC 中級 | - | 本学でイングリッシュトップピックス5（中級）から英語学習をスタートした学生や、就職・進学に向けてスコアアップを目指す学生を主対象とする応用コースである。各パートの得点をどのように上げるか、という攻略法を学び、演習・課題を実践していく。TOEIC®の得点をさらに上げたい人のための講義で、聞き取り、文法、読解のコツを体系的に学ぶ。 | |
| | インテンシブイングリッシュ | - | 海外にある本学の協力協定校において実施される短期集中プログラムである。参加学生は、協定校での講義と、英語圏での日常生活におけるコミュニケーションの実践を通して、英語能力を向上させることを目指す。グローバルに活躍する人材の育成を目的としており、具体的に次の達成目標を掲げている。①授業で学んだ英語を使用し、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。②異分野・異文化背景を持つクラスメイトや現地学生達との関わりを通じて、協調性、リーダーシップ、異文化理解、多様性認識などのグローバルマインドを育む。③意思疎通が不十分であったり言語面および文化面において困難を伴う場合、それを補う方法を修得する。 | |
| 英語・上級 | English Academic Writing 1 | - | 外国籍、日本国籍を問わず、ネイティブスピーカーと同程度の英語能力をもつ学生を対象に開講する科目である。学生自身が自らの専門分野に関連した論題を決め、情報を集めたうえで、概要の書き方、論文の構造、引用および参考文献の書き方を含む研究論文を書く能力を身に付ける。さらに、学生はアカデミックライティングに頻出する高度な語彙と文法構造も身に付ける。将来人工知能と共存する時代に研究者や技術者になることを見据え、人工知能やアプリを上手に使いながら剽窃や著作権を侵害せずに文章を書く方法を学ぶ。 | |
| | English Academic Writing 2 | - | 外国籍、日本国籍を問わず、ネイティブスピーカーと同程度の英語能力をもつ学生を対象に開講する科目である。「English Academic Writing 1」を履修した学生を対象に、当該科目の学習範囲から発展した内容を学習する。学生自身が自らの専門分野に関連した論題を決め、情報を集めたうえで、概要の書き方、論文の構造、引用および参考文献の書き方を含む研究論文を書く能力を身に付ける。さらに、学生はアカデミックライティングに頻出する高度な語彙と文法構造も身に付ける。将来人工知能と共存する時代に研究者や技術者になることを見据え、人工知能やアプリを上手に使いながら剽窃や著作権を侵害せずに論文を書く方法を学ぶ。 | |
| 数理基礎科目 | 技術者のための数理 I | - | 関数と逆関数について学び、関数の極限について学習する。また、指数関数、対数関数、三角関数、逆三角関数の理解を深め、その計算に習熟することを目指す。 | |
| | 技術者のための数理 II | - | 微分法の考え方を理解し、積・商・合成関数の微分法や逆関数の微分法を修得する。さらに、求積法の概念を理解し、基本的な関数の積分について学ぶ。 | |
| | 線形代数学 | - | ベクトルの演算や行列の計算、連立1次方程式の解法、1次変換、行列式などの学習を通して、多次元の対象を代数的に扱える能力を養い、専門分野へ応用できる力を養う。 | |

| | | | | |
|--------------------|----------------------|---|--|--|
| | データサイエンス物理 | - | 身の回りの自然現象の理解に物理が使われていることを学び、物理を用いて考えることができる論理的思考力を養成する。また、実際の測定データを解析して解釈し、帰納的に未知の事象を推論する力を養う。ベクトル、微分積分を用いて、運動の記述、質点や剛体の運動方程式、仕事やエネルギーなど、物理学の基礎を学ぶ。また、学んだ知識を応用し、論理的思考とデータ解析を通して、自然現象の背景にある物理を洞察する能力を養成することを目標とする。 | |
| | アドバンスト数理A | - | 多変数関数微積分学における偏微分と重積分について学ぶ。偏微分については、第1次、第2次偏導関数を求めることと、合成関数の偏導関数を求めることについて学習する。さらにその応用として、2変数関数の極値問題について学習する。重積分については、累次積分による計算方法を学び、さらに変数変換を用いた効果的な計算法を習得しているいろいろな重積分が計算できるようにする。 | |
| | アドバンスト数理B | - | 1階の常微分方程式、2階の定数係数線形微分方程式および連立微分方程式の解法について学習し、現象の数学モデルを構成する方法、具体的な解法と幾何学的な考え方、解の性質や特徴を分析する方法を理解する。また、技術計算言語MATLABを利用したコンピューティング・プロジェクトを実施し、現実的な諸問題に対する応用経験を得る。 | |
| | 技術者のための数理III | - | 技術者のための数理I・IIで学んだ、理系学問の土台となる基本的な関数やその微積分法について復習しながら、関数の連続性、パラメータ表示された関数とその微分法、対数微分法、高次導関数や関数の増減と極値、部分積分法、置換積分法、図形の面積について詳しく学ぶ。 | |
| | 技術者ための統計 | - | 工学において偶然性を伴う現象を解析する場合に必要な統計的な処理について学習する。観察や実験で得られたデータの整理を通じて、確率変数や確率分布の概念を理解する。また、代表的な確率分布である正規分布、カイ二乗分布、t分布、F分布の数表の使用に習熟する。さらに、母集団や標本分布について学び、それらを用いて母数の推定・検定ができるようになる。 | |
| | A I 基礎 | - | AI (Artificial Intelligence) に関する、基本的機能や活用例を、アクティブラーニングをとおして体験し、最先端技術について、さまざまな基本的実例を通して学ぶ。AI基礎においては、サイエンス・テクノロジーの新しいパラダイムに対応できる素地を涵養するため、AIの歴史、AI独自の画像認識、文章カテゴリー化と自然言語処理、対話型音声識別などの基本的内容を理解し、基本的操作ができるようになる。さらに、機械学習(深層学習)に必要な初等的なデータ構成ができるようになる。 | |
| | データサイエンス基礎 I | - | データサイエンスの非常に大きな部分を占めるデータ解析に関して、最も基本的な手法であるデータ集計の各種の手法および回帰分析の二つを身に着けることを目指す。データ集計と回帰分析を理解して実践できるようになり、実際のデータ活用を行えるようになることが目標である。 | |
| | データサイエンス基礎 II | - | データサイエンスに関連して広く用いられているクラスター分析、決定木分析、(人工)ニューラルネットワークの三つの手法を身に着けることを目指す。データを用いた分類や予測を理解して実践できるようになることが目標である。 | |
| 基礎 プロジェクト 科目 | プロジェクトデザイン入門 (実験) | - | 実社会における様々な問題に取り組むためのスキルや考え方を学ぶことを目的とする。各学生が所属する学科の特徴的な対象や現象を実験テーマとして、現象に関わるデータを収集→整理→分析→仮説→視覚化→報告に要する「データ取り扱いスキル」の基本を学習する。さらに、学習した実験知識・技能を活用し、問題発見から解決にいたるプロセスおよびデータに基づく検証活動の基本スキルを学習する。 | |
| | プロジェクトデザイン I | - | 実社会における様々な問題に取り組むためのスキルや考え方を学ぶことを目的とする。その基本的なプロセスは、実生活や実社会の中に存在する問題に気づき、データに基づいて現状を把握し、原因を分析したうえで、解決策を見出し、第三者にわかりやすく伝えるものである。自身が当事者もしくは関係者となる身近な問題の解決に向けてチームで取り組み、論理的な思考に基づいた問題解決を行う。 | |
| | プロジェクトデザイン II | - | 実社会における他者の問題の解決に向けて、必要な知識・経験・情報を収集し、個人またはチームでそれらを統合して、チームで組織的にプロジェクト活動を行う。メインテーマによりその流れは異なるが、先行科目のプロジェクトデザイン I で習得した基本スキルをもとに「問題発見→現状把握→課題決定→解決案の決定」の各段階において、より深いプロジェクト活動を効率的に行う。活動を通して、解が多様な課題を探索し、論理的かつ創造的に解決する力を身につける。 | |

| | | | | | |
|--------------------|----------|----------------------|---|--|--|
| | | プロジェクトデザイン実践 (実験) | - | プロジェクトデザイン入門・Ⅰ・Ⅱで修得した知識や技術をもとに、問題解決を目指すべく提案した解決案またはその特定部分の有効性を検証する。プロジェクトデザイン入門よりもさらに専門的な知識や技術を駆使し、対象や現象を定量的あるいは定性的に捉え、その特徴・特性・法則性について明らかにする。その過程で、検証活動の進め方および検証に必要なスキルをより深く学習する。 | |
| | | I C T入門 | - | パーソナルコンピューター(パソコン)の仕組みとその能力・可能性を理解する。その上でパソコンを教育・研究・技術開発など、学生として、また社会人となって、活用するための基礎的能力を修得する。特に、文書作成やプレゼンテーション資料作成の伝える力を修得する。 | |
| | | データサイエンス入門 | - | データの取扱いの基本を学ぶ。データ取扱いの入門ツールである表計算ソフトExcelの基本操作を学ぶ。そして、Excelを使用して、実験データやアンケートデータの集計・分析など、データの取扱いスキルを学ぶ。また、Excelを使用して、社会の実際のデータ(オープンデータ)を可視化することにより、データがもつ意味を理解し、データを集計・分析する力を身につける。 | |
| リベラル アーツ 系科目 | 文理 横断 | 日本文学の世界 | - | 日本文学作品の読解を通じて鑑賞する能力を高めて心情を豊かにし、国語表現(特に手紙文や敬語)について学習して、文書による表現力を伸ばすことを目標とする。作品としては、韻文・説話・物語・随筆・軍記などの優れた古典文学作品に加え、明治時代以降の小説等を扱う。 | |
| | | 人間と哲学 | - | 知性・独創性を養うために、哲学者の思想に触れて、その内容を理解する力を身につける。またそれをもとに自ら考える力を身につける。さらに、哲学的思考を他者と討論することによって、自らの考えを持つと同時に、他者の考えを理解し、他者とともに考えることを実践し、批判的思考力を養う。これらを通して、人間力を備えた、自ら考え行動する技術者になるために必要な思考力を涵養する。 | |
| | | 法と社会 | - | 知的財産権や製造物責任など、技術者にとって必要な法知識を習得し、それを踏まえて、毎日報道される様々な事件について問題点を指摘し、論理的に考察して、自らの考えを明確に説明できるようになることを目的とする。 | |
| | | 経済と社会 | - | 多様で複雑な現代において、人間の生活に大きく関わっている経済と、経済の主体の一つである会社について、機能や役割などの理解を深めることを目標とする。以上から経済の基礎的な知識、ならびに経済において大きな役割を担う会社について、制度や法律、社会への対応といったことの基礎的な知識を学ぶ。 | |
| | | こころのはたらき | - | 自他の行動を心理学的な視点から考察し、人間に対する洞察力を涵養すること、人の心に関する講義や討議で得た知識やスキルをもとに、自己成長につなげることを目標とする。 | |
| | | グローバル社会(ヨーロッパ) | - | 「書物」をテーマとして日欧交流の歴史を学び、グローバルな視野を獲得することを目指す。さらに、今日のグローバル社会において、今後どのように国際交流を深めてゆべきか、他者と意見交換を重ねながら、自らの考えを深め、国際社会へ出て行く力をつちかうことを目標とする。 | |
| | | グローバル社会(アジア) | - | アジア圏の外国文化を総体的に理解し、これを基に他文化に対する受け入れと理解することによって文化間の疎通の機会を提供するとともに究極的には人類が共に生きていく共存共栄の道を模索する。また、文化学習を達成するために衣食住など伝統文化、大衆文化、遊び、観光を中心とした余暇文化、ライフスタイルなどを比較しながら相互理解した上で、意思疎通能力を培うことが目的である。 | |
| | | 芸術へのアプローチ | - | 知性と教養・感性と徳性および技術者としての倫理観の涵養を図るために古今東西の造形芸術、特に絵画・工芸作品を通してそれぞれの持つ時代性や地域性を具体的に考察する。構図や彩色などの造形上の工夫を読み取ろうとする姿勢を通して、作品の底流にある作者の精神活動に思いを至らせる。さらに、その精神活動の基底に触れることによって、先人の生きることへの真摯な姿勢を理解する。 | |
| | | 科学技術と社会 | - | 科学と技術の関係、科学・技術と社会との関係などについて歴史的観点から検討する。科学の成果や技術的な解決が社会や環境に与える影響や、科学技術と社会とが互いに影響しあう中で生じるさまざまな問題について考察し、理解を深めることを通じて、今日の科学者・技術者は社会を支える営みに携わる当事者であるという視点を確立し、自身の見解を論じられるようになることを目指す。 | |

| | | |
|------------------|---|---|
| 技術者のためのコミュニケーション | - | 技術者が仕事を進めるために必要となる、自分の考えていることを論理的にまとめ、明確に文章や口頭で他人に伝える力、同時に相手の言っている内容を正しく聴き、理解する力、さらにチーム内で信頼関係を築き、相乗効果を生むようなコミュニケーションを図る力を体得する。 |
| 企業の組織と戦略 | - | 企業活動の事例学習を通じて、「会社」「企業」と我々の生活との関わりや商品やサービスの提供といった企業活動の実態、経営資源と企業活動、企業間の競争と経営戦略に関する理解を深める。更に事業の多角化、企業活動の国際化、企業の組織についても理解する。また、「自ら考え行動する技術者」を目指し、自ら調べた内容に基づいて多面的に考察する力と、その結果を第三者に論理的に伝える力を養う。 |
| 日本国憲法 | - | 日本国憲法を通じて、日本はどのような国家なのかを理解し、どのような国家であるべきか、日本人としていかに行動すべきかを考えられるようになることを本講義の目的とする。また、教員試験や公務員試験を志す学生は、受験に不可欠な憲法の知識を習得する。 |
| 韓国語入門 | - | 韓国語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する。初心者にとってハングル文字は音楽の楽譜のようなものなので、文字や発音についての基礎を学習する。文法の学習は最小限に止め、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四機能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。また、韓国語の世界が身近になるよう、視聴覚メディアなどを通じて、文化・風俗・歴史・社会の事情についても学び、国際的視野を広げる一歩とする。 |
| 国際関係論 | - | 現代の国際政治・国際社会について「今起きていること」を中心に説明する。領土問題、人種・政治思想などによる社会の分断、日米同盟の抑止力強化、経済安全保障などについて理解を深めるため、映像資料や政府資料、報道記事を活用。授業の最後にはグループに分かれて班別討議を行い、その結果を発表。討議テーマは講義時に指示する。発表後は全体討議を行い講師より講評を行う。 |
| 危機管理論 | - | 21世紀の日本を担う学生たちに危機管理の重要性を理解させ、危機に的確に対応できる人材を育成する。多様な危機の原因究明とその予防や被害最小に向けた態勢構築については、今後、ますます複雑化・混迷化する予測のもと、学生の自己啓発、自己研鑽に資することを目標とした授業を行う。 |
| AIプログラミング入門 | - | AIに関連する技術を扱う際に必須となっているプログラミング言語Pythonの基本的な内容について学ぶ。具体的には、変数、関数、制御文、繰り返し文などの基本的な内容に加えて、リスト、コンテナの処理、イテレータ、モジュールの利用などについて学ぶ。処理概要が与えられたら、入力、処理、出力を整理して、Python言語のプログラムを作成し、動作に問題があれば修正できる能力と、他者が書いたプログラムの処理内容を理解し説明できる能力を養う。 |
| AI応用 I | - | 人工知能の中心技術である深層学習(ディープラーニング)の基礎、画像認識分野で幅広く活用されている畳み込みニューラルネットワークや時系列データを処理するためのリカレントニューラルネットワークの仕組みと活用法などを実践的に学び、知能システムの実現に向けて重要な技術となる深層学習やその応用システムについての理解を深める。 |
| AI応用 II | - | 人工知能の最も中心となる自然言語処理に関する基礎的な技術をマスターし、特に、文解析、情報検索、文書分類、対話システムなどの応用システムに関する理解を深めることを目的とする。 |
| ビジネスデータサイエンス | - | データ分析に関する基本的な概念や手法を学ぶとともに、データ解析の基本的な手法を習得して、実際にデータ活用を行えるようになることを目指す。 |
| データサイエンス応用 | - | 典型的な機械学習の問題である回帰問題、分類問題、次元削減、クラスタリングの諸問題を、Pythonの機械学習ライブラリであるscikit-learnを用いて適切に分析できる実践的なスキルを身につけることを目指す。 |

| | | |
|----------------|---|---|
| I o T 基礎 | - | IoTシステムを構成する基本技術について体系的に学びながら、どのような現場でIoTを活用できるかについて、IoTシステム構成と構築技術（IoTシステムアーキテクチャ、IoTサービスプラットフォーム）、センサ/アクチュエータ技術と通信方式（IoTデバイス、ネットワーク、LPWA、プロトコル）、そして、IoTデータ活用技術（ビッグデータ分析技術、活用事例）やIoT情報セキュリティ対策技術（脅威と脆弱性、セキュリティ対策技術、情報セキュリティの標準と法制度）、IoTシステムのプロトタイピング技術（プロトタイピング活用）を学ぶ。本科目の履修により、IoTシステム技術検定試験の「基礎」から「中級」を合格できるレベルの知識を習得することを目標とする。 |
| I o Tプロトタイピング | - | IoTシステムを構築するためのマイコンを用いたプロトタイピング手法を学ぶ。プロトタイピングの考え方やプロセスやIoTシステム構築に必要な基本知識としてマイコンを用いたセンサやアクチュエータの利用方法、ネットワークの利用方を理解する。そして、個人およびチームでIoTシステムの提案とプロトタイプを作成する。 |
| I o Tプログラミング入門 | - | マイコンを動作させながらコーディング技術を学ぶ（C言語）。具体的には、変数、演算子、条件文、繰り返し文、関数、I/Oポート、A/D変換、PWM、UART通信を利用して、センサ、LED、モータなどを使ってアイデアを実現させるコードを作ることを目指す。 |
| ドローンプログラミング | - | Pythonを使って、小型ドローン（DJI-Tello）をプログラミング制御する方法を学び、DJI社が公開している仕様に従ってTelloとUDP通信し、機体制御及び機体情報の取得を行うマルチスレッドプログラムを作成する。開発環境は、オペレーティングシステム：Linux。言語はPython3（使用モジュールは主に socket、threading、opencv、pygame、pyqtgraph）である。 |
| I o T応用 | - | IoTを実現するために必要なハードウェアとセンサーを使った基礎的なシステム構築の手法を実践的に学ぶ。マイコン（ラズベリーパイ）と各種センサーを用いて、センサーの値をネットワーク経由でクラウドへ収集・蓄積する手法や、クラウド側の蓄積データを解析してモータや小型LEDディスプレイなどのデバイスからデータを出力する手法を学ぶ。C言語またはPython言語でプログラミングする。 |
| ロボティクス基礎 | - | 基本的なロボットの制御手法について、実システムのロボットカーを制御対象とし実践的に学ぶ。具体的には、レゴマインドストームとリアルタイムOSを使ったロボット制御プログラミングについて理解を深め、様々なセンサの値をフィードバックしてロボットを操作する方法を学ぶ。また、PID制御などの制御理論の基礎知識についても学ぶ。レゴマインドストームEV3とリアルタイムOSTOPPERS/EV3RTを使ってロボット制御を行い、ライントレースカーの製作・プログラミングを行う。 |
| 情報ネットワーク基礎 | - | 現在のインターネットを支えるプロトコル群であるTCP/IP、また関連する様々な通信技術の知識と理論を学習する。このことにより、LANやWANなどのコンピュータネットワーク、さらにはWWWがどのようなものであるのかを理解し、ネットワーク運用に関する基礎的なスキルを身に付ける事を目標とする。 |
| ネットワークセキュリティ | - | TCP/IPを理解していることを前提とし、近年その重要性が高まりつつあるネットワークのセキュリティに関する知識と技術について学ぶ。具体的には、DoS攻撃やSQLインジェクションのようなさまざまなネットワークの攻撃手法とそれに対する対策技術を実践的に学ぶ。また基礎的な暗号理論とその実装についても学ぶ。 |
| グローバルPD | - | 専門分野・国籍・文化的背景の異なる者が、共通の目的達成に向けて協働し、現実社会における問題発見・解決に取り組む。活動では論理的な思考に基づき現実社会の問題を発見し、制約条件下における解決案を創出する。また、創出した解決案をプロトタイプ（モックアップ）や資料として具現化し、関係者と共に解決案を改善・改良する能力を得る。 |
| 未来学 | - | 私たちにあって望ましい未来社会の姿を考えることができる力、現在の状況から予測される将来の自然的かつ社会的な変化を洞察できる力を養うことを目的とする。Futures wheel、バックキャストリング、シナリオ・プランニングなどの概念やスキルを理解し、ディスカッションを通して、望ましい未来社会の姿を見据え、私たちのとるべき行動について考察する。 |
| コンセプチュアル思考 | - | 物事や問題の本質を捉え、多角的な視点から解決策を考えることができる思考法を身につけることを目的とする。問題の中に潜在する見えないものを洞察し、その価値を判断して全体を概念化しながら思考や行動ができるための方法論を学ぶ。また、ロジカルシンキング、デザインシンキングなどの思考法との違いを理解し、他の思考法と融合して活用できる思考力を養う。 |

| | | | | |
|----------|---------------|---|---|--|
| | 感性デザイン | - | 人々の共感を生み、感動を与えるデザインやものづくりに必要となる基礎知識を修得することを目的とする。人間の情動知能、感性、感情がどのようなものかを理解するとともに、良いデザインやサービスがもつ、こだわり、コンセプト、ストーリーを含むデザインが、どのような形で可視化されているか理解する。また、見えないものに気がつく直観力、感性にもとづく理解力や認識力を養う。 | |
| | サステナブルイノベーション | - | 社会情勢や自然環境が大きく変化する現代において、持続可能な未来社会を実現するために必要な、新たな価値を生み出すための基礎力を養うことを目的とする。これまでのモノづくり、コトづくりの歴史に学び、社会や私たちの生活に真に役立つ持続可能なイノベーションに求められる考え方を理解し、価値創出フォーラムを通して精度を高める。 | |
| | 科学技術と人・社会 | - | 科学と技術の関係、科学・技術と人及び社会の関係などについて歴史的観点から理解することを目的とする。科学の成果や技術的な解決が人や社会、そして環境に与える影響や、科学技術と人・社会とが互いに影響しあう中で生じるさまざまな問題について考察し、ディスカッションしながら意見を交わし理解を深める。 | |
| 教職に関する科目 | 教育原理 | - | 教育の原理的考察を通して、自分なりの教育観を持つことを目標とする。そのために、教育理論を踏まえて、実際に行われている学校教育・家庭教育・社会教育の課題を明確にし、これからの教育について考えることのできる基礎的能力を養うことを目的とし、講義とディスカッションを組み合わせて学習する。ディスカッションでは、指定されたテーマについて各グループで議論を行い、その概要をワークシートに整理する。 | |
| | 教師入門セミナー | - | 教育と教職の意義、教職に就くまでのプロセス、教師の仕事や教師の実践的指導力について学び、さらに今日の臨床教育について理解する。講話や受講生どうしの討議により、今後求められる教師の役割や在り方について考察することを通して、教職課程で何を学ぶのかについて理解する。これらの学習活動により、受講生各自が自己の教師を目指す者としての適性について熟考し、また教職課程における目標を持ち、真摯に教師を目指して学んでいく態度を涵養することを目指す。 | |
| | 教職概論 | - | 教職の意義、役割、教員の職務内容について学ぶ。教職科目で学んだことを総合的に捉えなおしながら、これからの学校教育における教師の在り方および教職の意義について理解を深め、教育現場で生きて働く実践的指導力を培う。さらに教育実習後は、進路選択の基礎知識をふまえて、教育実習を振り返ることにより、自身の教師としての適性を判断し、進路選択の準備を行う。教職観の確立、教師としての実践的指導力を育成するために、以下の内容で授業を進める。なお、ディスカッションでは、指定されたテーマについて各グループで議論を行い、その概要をワークシートに整理する。 | |
| | 教育制度論 | - | 学校教育におけるさまざまな取り組みの背景には教育制度がある。したがって教育をスムーズに行うためには、その背景にある教育制度を理解することが重要である。学校教育に関する社会的・制度的・経営的な事項に関する基礎知識とその課題に関して考えることを目的とする。加えて、現在の学校で重要な学校と地域との連携・協働と安全の保障についての基礎知識の獲得を目指す。有意義な教育を支える制度とはどうあるべきなのかを、具体的な事例のなかでの活用についても考察する。 | |
| | 教育心理学 | - | 学校現場で中学校及び高等学校の生徒に対して有効な教育実践を行うために必要な教育心理学の基礎について理解することを目標とし、具体的には、発達、学習、適応、及び教育評価の教育心理学の四領域を概観し、青年期までの各発達段階に関する理解及び発達障害に関する理解と支援の方法について学習する。可能な限り具体的な事例をあげながら、専門的な内容も含めて講義する。 | |
| | | | | |

| | | |
|------------------------|---|--|
| 学習・発達論 | - | 学習と発達の理論、発達障害に関する基礎事項を理解し、有効な教育実践を行うためには、生徒の理解の仕組みや心理的狀態を的確に把握できるようにする必要がある。最終的には学習心理学と発達心理学の視点から、有効な教育実践を行う教育者になるために必要な観察眼と考え方を養い、自分なりの教育観を確立することを目標とする。学習心理学と発達心理学に関する教育実践場面への適用を考慮し、教員になったときに生徒たちに学習心理学と発達心理学の知見をいかに活用するののかについて講義とグループ討議を行い考察する。 |
| 特別支援教育概論 | - | 現在および今後の教育で特に重視されているもののひとつに、何らかの「障害」を持つ生徒への支援がある。特別支援教育は、特定の生徒の成長に寄与するだけでなく、すべての生徒にとっても有意義なものである。本科目では、特別支援教育に関する基礎的な事項の理解を目指し、その方法について考察する。現在の学校教育において大きな意義を持つ特別支援教育について、教師となる上で必要な知識を示し、教師に求められる「障害」に対する適した見方を身に付ける。 |
| 教育課程論 | - | 教育課程とは、学校教育の内容や方法の在り方を定めたものであり、それは学校教育の基調に直接的に関わりをもっている。教育課程の内外での歴史の変遷や編成原理を押さえつつ、これからの学校教育における教育課程のあり方について考察する。新学習指導要領を中心として、今日の教育課程改革の動向を明らかにする。次に、内外の教育課程改革の歴史を捉え、教育課程の編成原理をめぐる諸課題について検討を行う。それらを踏まえて、これからの学校教育における教育課程のあり方について探究する。 |
| 道徳教育の理論と実践 | - | 道徳教育の本質を理解し、道徳教育の歴史的経緯及び道徳科の意義や目標について説明することができる。また、子どもの発達の段階や道徳性の発達を考慮し、道徳教材や指導法に生かすことを通じて、指導計画や学習指導案を作成することができる。さらに、学校の全教育活動を通して行われる道徳教育と「特別の教科道徳」において行われる道徳授業との関係を明らかにするとともに「考え、議論する」道徳授業の実践に必要な知識、指導技術の基礎的能力を養う。 |
| 総合的な学習の時間の指導法 | - | 教育課程における「総合的な学習（探究）の時間」の意義や役割を理解し、教育実践例から各学校のテーマおよび学習内容の意図等に気づき説明することができるようにする。また、指導計画の作成を通して、横断的・総合的な学習の効果について考察するとともに、実践のための基本的指導力を身に付ける。さらに、指導方法と評価の考え方や配慮事項について理解し説明することができるようにする。指導計画作成の際の考え方、単元計画の重要性などについて理解を深め、教師の指導力を身に付ける。児童生徒が課題解決学習を通して、生き方を考えていく上で必要とされる資質・能力を育成するための具体的指導法および評価についての知識・技能を身に付ける。 |
| 特別活動の指導法 | - | さまざまな子どもの問題行動が顕在化してきている今日の状況において、教育課程の一領域である特別活動への期待は高まっている。特別活動では「望ましい集団活動」がキーワードとなり、とりわけ学級活動・ホームルーム活動が重視されている。特別活動の歴史の変遷や理論の動向を踏まえながら、その教育的意義について考察していく。クラブ活動・部活動および学級活動・ホームルーム活動を行う上での教師の指導性についても検討していく。 |
| 教育方法・技術論（情報通信技術の活用を含む） | - | 「授業」は、教授と学習の統一された過程として捉えられる。このような「授業」を成立させるためには、何をどのように教えるかということが問題となり、教師には教材分析を行う力や学習指導案を作成する力、さらに情報機器やメディア、教材を活用していくことが求められる。また、「授業」の後には授業分析や評価が必要であり、それらによって次の「授業」に向けた改善が可能となる。本授業では、学校教育の中心である「授業」を主たる対象として、よりよい「授業」を行うための方法や技術を習得することを目標とする。 |
| 生徒・進路指導論 | - | 我が国における教育改革の動向を見据えて、生徒・進路指導の諸原理を学び、特に中学校と高等学校に焦点を当て、その目的と意義について考える。さらに、現在の学校教育が抱えている生徒指導と進路指導に関する具体的な問題を知り、これからの生徒・進路指導の在り方について考察する。また、実践に際する配慮事項及び学習、支援活動の具体的指導方法などについて、ディスカッション、ロールプレイング等を取り入れ理解を深める。 |

| | | |
|-------------------|---|---|
| 教育相談 | - | 教育現場で見られる心理的諸問題（生徒・保護者との関わり方、いじめ、不登校、学校不適応、発達障害等）を取りあげる。受講者が児童・青年期の心理的特徴、生徒との対人関係を深める方法、保護者との関わり方など、教師になるにあたり学んでおくべきと思われるテーマについて、集団討議・発表など実践的な方法も取り入れながら理解を深めていく。小学・中学・高校時代を振り返った上で、教師の立場になったという想定で児童・生徒にとって何が必要かを考える機会となるように、模擬面接を交えたグループ討議を実施する。 |
| 教育実習（事前・事後指導） | - | 教育実習を行う目的は、学校に体験的に勤務し、自分の教師としての適性を確認するとともに、目指すべき教師像を明確にするために行うことである。この目標を達成するためには、事前の準備として、学校での教師の仕事に関する理解を行った上で、実習生としての心構えを身につけ、実習における目標を持つことが必要である。また、教育実習の事後には、学校での体験を振り返ることによって、教育実習の目標について振り返る。さらにこれらの学習活動を通して、自らが理想とする教師になるための今後の課題を考える契機とする。 |
| 教育実習 I | - | 教育実習においては、大学で学んだ一般教養・専門教養・教職教養などを学校現場において総合的に生かし、授業実習を通して生徒理解を深めるとともに、学校運営や教員の職務実態に触れて望ましい教師像を形成する。実習校の管理職教員から説明される学校の職務全般について理解し、学校や授業の様子を詳細に観察することが重要である。また、生徒と積極的に関わる態度も必要である。実習では授業実習（教壇実習）が中心となる。さらに、生徒指導や進路指導、課外活動の指導を行う。職務を遂行しながら、教科指導、生徒指導、進路指導など実習で行った職務全般について省察と総括を行う。特に教科指導においては、実習中の総括として研究授業が実施され、実習校の教員からの講評を受ける。 |
| 教職実践演習（中学校及び高等学校） | - | 演習や現職教員の指導を受け、教職教養・一般教養・専門教養などの「専門職的知識」と教科指導や学級経営などを通して得られた「専門的実践力」を統合し、使命感や責任感、及び教育的愛情に裏打ちされた専門的指導力を高めることを目指す。また、履修カルテを用いた個別指導を行うことにより、各受講生に教員としての資質・能力、適性について自己評価を通して指導助言にあたり、一人一人のキャリア形成を支援する。最終的には、教師に最小限必要とされる資質・能力の確認を行う。 |
| 工業概論 | - | 高等学校の工業系科目を担当する教員には、工業の各分野についての基礎的・基本的な知識を包括的に身につけていることが求められている。この要請に対応して、工業の各分野を概観し、工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識の習得、現代社会における工業の意義や役割の理解、これらの知識・理解と現在の環境やエネルギーの問題を考慮して、工業技術の諸問題を主体的、合理的かつ倫理的に解決するための実践の基礎となる能力と態度を習得することを目指す。 |
| 職業指導 | - | 学習指導要領において「生きる力」の育成が重視され、その文脈において、とりわけ職業指導（進路指導）のあり方が問われてきている。児童生徒の今日的状況や教育改革の動向、職業指導（進路指導）の歴史を踏まえつつ、生徒が自らの生き方を選択・決定し、自己実現を果たせるような職業指導（進路指導）のあり方を考察する。前半では職業指導（進路指導）の歴史と理論を学び、また今日の児童生徒を取り巻く教育的・社会的状況を分析しつつこれからの学校教育における職業指導（進路指導）の可能性を考察する。後半では、学校における職業指導（進路指導）実践のあり方について検討し、理解を深める。 |
| 工業科教育法 | - | 工業教育の目標は「工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境及びエネルギーに配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる」ことにある。工業高校の教員として上記の目標を達成するために、適切な授業運営を行うことができる基礎的な知識や実践力を身につけることを目指す。 |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | | |
|---------------|------------|--------|---|--------------------|
| (建築学部 建築学科) | | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 主要授業科目 | 講義等の内容 | 備考 |
| 専門科目 | 建築構造のしくみ | ○ | 建築物は、安全性や快適性など様々な側面から評価される。建築の構造・構法の概要及び建築に使用されている材料の特性を理解し、安全性に優れた空間創造のための合理的な判断・行動のできる建築技術者としての素養を身に付ける。地域産材を利用した木造建物の事例を学習し、地域と建築のつながりについて理解する。 (オムニバス方式/全15回) (13. 須田 達/8回) 授業運営責任者、一般構造全般の講義を担当 (6. 佐藤 弘美/7回) 木質構造の講義を担当 | オムニバス方式 |
| | 建築の計画とデザイン | ○ | 建築の知識・技術を人間と社会に対する幅広い視野で活用し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。建築学の入門編であるこの科目では、建設業の広がりや建築学諸領域の概要を学び、人間の行動や意識に作用する様々な側面を計画することの重要性を理解する。同時に、卒業生や社会人を交えた討論によって建築への関心を高め、自らに問かける学習姿勢や将来目標を実現するための修学計画能力を身につける。 (オムニバス方式/全15回) (8. 佐藤 考一/7回) 授業運営責任者、建築計画を支えるプロフェッションの講義を担当 建築を構成する諸領域と建築と外部空間に関する歴史・意匠を担当 (12. 山田 圭二郎/8回) 建築を構成する諸領域と建築と外部空間に関する歴史・意匠を担当 建築計画の広がりを担当 | オムニバス方式 |
| | 建築基礎製図 | ○ | 安全で美しく快適な人間活動の器としての建築を計画し、建築計画・建築構造・建築環境ほかで学ぶ、建築や地域が持つべき基本的な内容を、図面を使って第三者にも理解できるように、的確に表現する能力を身につけることを目標とする。 | |
| | 建築環境学 I | ○ | 建築や都市はデザイン性をはじめ、安全性、利便性など様々な側面から評価される。学科の教育目標にある「安全で美しく快適な人間活動の器としての建築と都市」実現のための建築環境、すなわち熱・空気・光・音環境に関する基礎知識を修得する。さらに、熱環境の日照・日射、伝熱、結露、快適性について学ぶ。工学的視点から建築・都市と人間の関わりを学び、優れた空間創造のための合理的な判断・行動のできる建築技術者としての素養を身につける。 | |
| | 日本建築史 | ○ | 日本建築の歴史的な変遷について、古代から近代までを概観する。そして、各時代の建築の意匠・技法などの特徴、および建築の空間構成について、社会的背景、地域性や建築技術などとあわせて理解する。都市や地域を形成している建築および町並みの役割や特性について、歴史的な背景を含めて学ぶ。 | |
| | 建築構造力学 I | ○ | 建築構造の基本的なモデルである静定梁、静定トラス、静定ラーメンの力学的特性を学ぶ。建築物に働く力のつりあいを理解し、反力の求め方を学ぶ。断面力という概念及び自由体のつりあいを理解し、梁やラーメンの断面力の分布の求め方を学ぶ。節点のつりあいを理解し、トラスの軸力の求め方を学ぶ。さらに応力度という概念を理解し、梁やラーメンに働く応力度の求め方を学ぶ。これらの知見を総合化して、構造に関わる地域のニーズとシーズに対する問題に取り組む。 (オムニバス方式/全15回) (9. 山岸 邦彰/7回) 静定構造物の反力、断面の諸量、材料の力学的性質、断面係数と緑応力度、せん断応力度を担当 (6. 佐藤 弘美/7回) 建築構造物と構造力学、力の合成・分解・モーメント、構造物と荷重のモデル化、安定と不安定、反力、応力(断面力)、応力図、静定梁、静定トラスを担当 (9. 山岸 邦彰・6. 佐藤 弘美/1回) (共同) テキストやレポートを振り返り、授業で解説した内容の理解を深める | オムニバス方式・共同 (一部) |

| | | | |
|------------|---|---|------------|
| 建築設計基礎 | - | 「建築構造基礎」で建築構造の基礎的な成り立ちを学んだ事を踏まえ、本科目では建築設計を提案するための基礎的な考え方や活動の枠組みを学ぶ。具体的には、建築設計の立体的な構成について構想スケッチ・模型・CADで表現することによって、構造体や意匠的要素を含めた総合体としての建築設計の在り様について基本的な理解や考察ができるようになることを目的とする。また、この内容は2年次の「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ」で求められる設計案の検討や伝達のための基礎技術となる。 | |
| 建築設備総論 | ○ | 建築設備で重要な空調・換気設備と給排水衛生設備の建築設備全般について学び、設備設計に応用できる能力を身に付ける。さらに、空気環境改善のために気流設計手法として気流解析技術を身に付ける。また、全体を通して、北陸の地域特性を考慮して建築分野で起きた被害事例、判決事例を取り上げながら、法規の知識と技術的解決のための視点を身に付ける。 | |
| 建築設計演習Ⅰ | ○ | 「安全で快適な建築を設計できる基礎的能力」の養成という学科の教育目標にもとづき建築基礎製図の上位に位置し本格的な建築設計の学習に取り組む。小規模建築の設計手法、図面化や、自分の考えをまとめプレゼンテーションする能力を養う。課題テーマの建築用途、快適性や安全性、測定可能な形等の条件と地域に連携して設定された対象敷地の周辺環境を把握し自分が意図する建築空間を設計し、その基本的内容を図面等で表現する。手順を追って設計し、スケジュール感覚と提出期日を厳守できる習慣を身につける。 | |
| 建築キャリアデザイン | ○ | 建築関連分野における実社会の動向を理解し、大学院進学も含めて将来の進路を幅広く展望した上で、自らの進むべき方向を決定する能力を修得するための授業を行う。具体的には、建築分野における職能・職種、各種専門領域、建築学部2学科の学ぶ領域などを講義した上で、自らのキャリアデザインを視野に入れた学習計画を論理的な文章を用いてまとめる課題に取り組む。 (オムニバス方式/全8回) (5. 円井 基史・11. 山崎 幹泰/2回) (共同) 講義等を担当 (5. 円井 基史・12. 山田 圭二郎/3回) (共同) 講義等を担当 (5. 円井 基史・6. 佐藤 弘美/3回) (共同) 講義等を担当 | オムニバス方式・共同 |
| 西洋建築史 | ○ | 西洋における古代オリエント建築から近現代建築までの代表的な遺構、作品、関連人物、それらの様式的な特徴、美的構成を理解し、各建築様式の空間構成の特質や、用途、機能や構造条件を満たすそれぞれの時代の技術的な特色、それらを支えた理念や社会的背景を理解する。過去・現在・未来という時間軸を意識しながら建築を理解し、歴史的観点から建築や都市、社会のあり方を考えるための基礎知識を習得する。 | |
| 建築構法計画 | ○ | 構造、材料、設備の各側面を総合的に考慮しながら、建物を計画、設計、構築、維持するために必要な知識を身につける。建築材料・構法に関する専門的知識や、それらの特性の総合化から生まれる環境時代の新しいデザインについて学ぶ。さらには実際に建物が作られるシステムや、建物の規格化、部品化などの建築生産に関する専門的知識についても学ぶ。 | |
| 建築構造力学Ⅱ | ○ | 安全で美しく快適な人間活動の器としての建築を作るために、静定構造物を扱った建築構造力学Ⅰを進展させて、不静定構造物について述べる。最初に、構造物を静定と不静定構造に判定する方法を、次に部材の変形、圧縮材の座屈問題を理解する。更に、仮想仕事の原理を用いて構造物の変形と、簡単な不静定構造物構造物の解法を述べる。更に、たわみ角法および固定モーメント法による解法を講義し、不静定骨組の解法が出来るようになる構造物をモデル化し、設計用応力を求めることが出来る。 (オムニバス方式/全15回) (6. 佐藤 弘美/8回) 授業運営責任者、不静定構造物の講義を担当 (13. 須田 達/7回) 不静定構造物の解法の講義を担当 | オムニバス方式 |
| 建築環境学Ⅱ | ○ | 「安全で美しく快適な建築・都市空間を計画、設計、築き、運営することができる基礎的能力」の養成という学科の教育目標の達成に向けて、建築・都市空間にかかわる環境要因のうち、特に音環境および光環境に関する物理的・生理的・心理的側面から基礎事項について学ぶ。建築音響については、音響設計の基礎、吸音と遮音、響きの制御、室内音響設計の各項目について学習する。光環境については、照明設計の基礎、照明計算、人工照明の各項目について学習する。 | |

| | | | |
|----------------------|---|--|---------|
| 建築エンジニアリング情報 演習 I | ○ | 建築分野全般に関わるデジタル表現技術としてBIMによる建築の表現手法を学ぶ。具体的には、建築の3D表現、それと連動した図面表現、光のシミュレーション、属性情報活用などを実践を通じて学ぶ。建築設計では、立体モデルや図面等を媒体としてアイデアを可視化するとともに、可視化されたモデルを使ってその良否をいかに評価・考察するかが重要である。そして、その過程には他者とのコミュニケーションも含まれる。単にソフトウェアの習得というレベルを超え、自己のアイデアの価値発見やスパイラルアップの武器として学ぶ。 | |
| 建築計画 | ○ | 現代の様々な建築の用途や機能を理解するとともに、これらの適正な計画を行うために適正な知識を養う。同時に、建築と関連する外部空間の計画、都市空間に関する基礎的な知識を修得し、適正な建築計画を策定できる能力を養う。 | |
| 建築材料 | ○ | 安全で快適な器としての建築を作るため材料科学に関する基礎知識を修得する。どんなに良い設計・構造計算でも材料に関する基礎知識の不足が建物の安全性・耐久性・機能性・居住性に加え、将来的な維持補修・解体・廃棄で環境に及ぼす影響が図り知れないことを学ぶ。また新しい材料は新しい構法を創り、意匠設計・構造設計・建築設備にも刺激を与えることを理解する。ここでは主に躯体材料の木材・鋼材・セメントコンクリート材と仕上材料、機能材料の特徴を理解する。 (オムニバス方式／全15回) (13. 須田 達／10回) 授業運営責任者、構造材料の講義を担当 (8. 佐藤 考一／3回) 仕上げ材料の講義を担当 (5. 円井 基史／2回) 機能材料の講義を担当 | オムニバス方式 |
| 建築設計演習 II | ○ | 建築設計演習 I で学んだ内容を発展させ、2課題の建築の設計を通して、建築設計の基礎的手法を習得する。ゾーニングや動線計画から、形態・空間・安全性・快適性・周辺環境などに配慮した一連の設計作業を習得すると同時に、より豊かな図面表現の技術を学ぶ。 | |
| 建築構造計画 | ○ | 建築構造、材料に関する基礎知識を学び、建物の使用目的に適合するよう、構造形式、構造材料、構造部材の配置などを考慮し、力学的に合理的な建築空間を計画・設計するための構造計画を示すことができる能力を育成する。 (オムニバス方式／全15回) (4. 西村 督／8回) 授業運営責任者、構造の計画やシステム等を担当 (7. 河原 大／7回) 構造基礎や部材設計、耐震設計方法等を担当 | オムニバス方式 |
| 建築設備学 | ○ | 建築の貫流熱負荷の大きさを把握・認識した上で、建築に生ずる各種熱負荷の算定方法を学び、この熱負荷に対処して屋内を適切な温熱環境にコントロールするための空気調和設備に関する知識を身に付ける。さらにエネルギー消費及び二酸化炭素排出を抑制できる空気調和システムと熱源システムについて、種類と特徴を理解する。建築技術者として、環境負荷の小さい建築の実現と普及に必要な知識を身に付ける。 | |
| 建築施工 | ○ | 安全で快適な器としての建築を作るための基礎能力を総合した授業で、ものづくりの工程を把握する。建築を建てることは、設計、構造、材料・構法、建設情報、多くの産業製品と現場における人との関わりの中で成り立っており、建築施工の過程や施工上の特徴、問題点を学ぶ。 | |

| | | | |
|-----------------|---|--|------------|
| 建築エンジニアリング情報演習Ⅱ | ○ | <p>「建築エンジニアリング情報演習Ⅰ」の上位授業である。コンピュータグラフィカルデザイン、すなわちプログラミングにより意匠・構造・環境に関わる設計提案を行うための基礎技術を学ぶ。前半ではビジュアルプログラミングの基礎を学んだ上で、ルールに基づいた柔軟な建物形態の生成・制御手法を学ぶ。後半では、構造・環境のそれぞれの観点から建築形態のシミュレーション手法を学ぶ。これらを通じて、BIMソフトとは異なる建築形態の表現・検討技術の意義について考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(10. 下川 雄一、131. 藤井 健史、140. 廣瀬 寛騎／7回) (共同) プログラミング基礎と意匠シミュレーションを担当</p> <p>(10. 下川 雄一、131. 藤井 健史、140. 廣瀬 寛騎、4. 西村 督／4回) (共同) プログラミング基礎と意匠シミュレーション、構造シミュレーションを担当</p> <p>(10. 下川 雄一、131. 藤井 健史、140. 廣瀬 寛騎、5. 円井 基史／4回) (共同) プログラミング基礎と意匠シミュレーション、環境シミュレーションを担当</p> | オムニバス方式・共同 |
| 都市デザイン | - | <p>都市空間を構成する諸要素と人間活動との関係性を理解し、その関係性を適切に操作・編集しデザインするための基本的考え方や空間操作・デザインの基礎的能力を身につける。そのために、都市空間の調査の視点と方法、景観工学の基礎(空間・景観の視知覚特性や印象・評価等)やそれに基づく空間の操作・デザインの基礎知識を学習する。また、実際に用いられている国内外の都市デザインの手法を、具体的な実例から多角的に理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(12. 山田 圭二郎／10回) 授業運営責任者、都市デザイン全般の講義を担当</p> <p>(132. 高橋 元貴／5回) 都市・集落の調査方法、図化方法に関する講義を担当</p> | オムニバス方式 |
| 建築デザイン論 | - | <p>第1期の建築の計画とデザインの上位授業。人間活動を支える機能性を理論的に捉えて空間を構築する計画的発想に対し、本授業は、主に人間活動の器である建築物を文化的・芸術的に捕らえる意匠的発想で学ぶ。多様な建築デザインを分析・考察できる基礎知識を身に付け、時代背景を前提に優れた建築とは何かについて考える。また、本授業を契機に自主的に学んだ知識を、建築総合演習A・BやプロジェクトデザインⅢの作品づくりに応用・発展させるためのデザイン手法や、クリエイティブな発想・生き方についても学ぶことを目標とする。</p> | |
| 鉄筋コンクリート構造 | ○ | <p>鉄筋コンクリート構造について、構造設計の基礎となる部材と接合部の設計を中心としながら、構造設計に関わる基礎知識を学ぶ。また、地域性を考慮して多雪地域に建つ小規模な構造物を対象に、構造計算の手法や考え方を理解するとともに、鉄筋コンクリート構造の構築方法や構造的安全性を具体的に学ぶ。</p> | |
| 鉄骨構造 | ○ | <p>鉄骨構造はわが国でよく適用される構造種別の一つである。鉄骨構造を安全に構築するために必要な、鋼材の特徴、鉄骨構造部材の設計、施工等の基礎知識について学習し、それらの知識に基づき実際の設計や施工に応用し得る能力の養成を行う。</p> | |
| 建築環境設計Ⅰ | ○ | <p>新しい時代の建築には、利用者や居住者に健康で快適な空間を提供するとともに、外部環境に対して負荷が小さいこと、すなわち環境性能・省エネルギー性能に優れた建築であることが求められる。本授業科目では、人体温冷感と快適域、熱負荷計算、最新の空気調和設備と熱源機器など、建築の環境設計のための要素技術および手法を学ぶ。また、各地域の省エネルギー建築を対象とした調査を通じて、学習内容の重要性を認識する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2. 永野 紳一郎／8回) 授業運営責任者、環境設計の要素技術の講義を担当</p> <p>(1. 垂水 弘夫／7回) 設備的な省エネルギー技術の講義を担当</p> | オムニバス方式 |
| 建築環境学Ⅲ | ○ | <p>建築環境・建築設備に関連して、社会で問題が生じている事項の内容と対策を知ること、これからの時代に建築技術者に要請される基本的概念を理解することを目指す。具体的には騒音の伝搬の予測や対処方法、誘導のためのサイン計画、環境要素と心理の関係性を解明する環境心理といった事柄について学び、建築設計やまちづくりの基礎的な考え方を学ぶことが目標となる。</p> | |

| | | | |
|-------------|---|--|--------------------|
| 建築法規 | ○ | <p>建築物は、基本的には「個人資産」であるが、基礎的な「社会資本」でもあり、多くの法規の対象となっていることから、まず、これらの法規を俯瞰的に捉えながら、都市計画などの枠組みは深掘して学ぶ。そして、建築物の最低限必要な性能を規定する「建築基準法」の役割、構成及び基準の内容を学習する。以上により、建築物の企画設計などに必要な素養を備え、都市・まちに責任を持つ建築士の育成を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8. 佐藤 考一・100. 竹内 正人／2回) (共同) 講義概要説明と考査等を実施 (100. 竹内 正人／13回) 建築基準法と建築関連法規の講義を担当</p> | オムニバス方式・共同 (一部) |
| 都市・まちづくり | - | <p>都市計画やまちづくりについて、その特性、手法、意義などを説明する重要な用語や概念を理解し、具体的な事例について、都市計画用語その他の適切な用語を用いて、その特徴や意義を自ら説明できる能力を身につける。また、都市の成り立ちや歴史の変遷、その特徴、現状の問題点などを自ら調査・把握し、都市・まちづくりの構想・計画を立案するために必要な基礎的な能力を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(12. 山田 圭二郎／7回) 授業運営責任者、日本における近代以降の都市関連制度やまちづくりの取り組みに関する講義を担当 (11. 山崎 幹泰／3回) 海外の都市史の講義を担当 (138. 高橋 元貴／3回) 日本の都市史の講義を担当 (11. 山崎 幹泰・高橋 元貴・12. 山田 圭二郎／2回) (共同) 都市におけるまちづくりの総括と講義内容の振り返り、議論を実施</p> | オムニバス方式・共同 (一部) |
| 建築再生論 | - | <p>これまで学習した建築計画、構造計画、環境計画、材料・施工計画の基礎知識をもとに、より高度な建築計画・設計方法の一つとして建築再生に関する知識・技術および建築の持続可能性について学ぶ。その中で、建築再生に求められる要件やその実現手段および社会的価値について学習し、建物再生を実現するための計画・設計・施工・維持管理の基準を自ら設定できることを目標とする。また、地域との連携の中での建築再生のあり方も学ぶ。</p> | |
| サステナブル都市・建築 | ○ | <p>学科の教育目標のための最終段階として、これまでの学習による建築計画、構造計画、環境計画、材料・施工計画の基礎知識をもとに、より高度な展開のひとつとしてサステナブル建築すなわち持続可能な建築、および建築・都市におけるGX（グリーン・トランスフォーメーション）すなわち脱炭素社会への変革の取り組みについてを学ぶ。具体的には、サステナブル建築が持つべき要件、および建築・都市のGXの実現のための手段について学習し、その計画・設計・施工・維持管理規程を自ら設定できることを目標とする。また、地域との連携の中でのサステナブル建築のあり方も学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1. 垂水 弘夫／5回) 建築設備とGXの関係領域を担当 (8. 佐藤 考一／5回) 建築生産とGXの関係領域を担当 (7. 河原 大／5回) 建築構造とGXの関係領域を担当</p> | オムニバス方式 |
| 建築構造設計 | ○ | <p>鉄筋コンクリート構造と鉄骨構造で習得した知識を再整理し、構造設計の流れと考え方の詳細について学ぶ。地域特性を考慮して試設計された鉄筋コンクリート構造と鉄骨構造の複合構造の建物を対象として、具体的に構造設計を行い、構造計算書や構造図等を作成する能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4. 西村 督／6回) 授業運営責任者、構造設計・構造計画・荷重・部材設計を担当 (9. 山岸 邦彰／8回) 応力計算、部材設計を担当 (6. 佐藤 弘美／4回) 設計ルート、二次設計、保有水平耐力の計算、構造図を担当</p> | オムニバス方式 |

| | | | | |
|----------|-------------|---|--|---------|
| | 建築安全工学 | ○ | <p>これまで学習した建築構造力学、建築一般構造の知識を応用して、建築物の安全を確保するために不可欠な構造設計の基礎知識を学ぶ。建築物から発生する荷重を地盤に伝える基礎構造、コンピュータによる計算を前提として複雑なラーメン架構の応力計算を行うマトリクス法、過大な地震が作用した場合の終局状態における建築物の耐力や部材応力・耐力を計算する塑性解析、これまで静的外力として扱った地震や風などの外乱を動的外力として扱う振動論と、この振動論を応用した免震、制震の基礎について、それぞれ学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4. 西村 督／8回) 授業運営責任者、弾性論基礎・直接剛性法・塑性解析を担当 (7. 河原 大／7回) 耐震設計・基礎構造を担当</p> | オムニバス方式 |
| | 建築環境設計Ⅱ | ○ | <p>ゼロエネルギー建築の開発・普及および低炭素型のまちづくりが、建築界の大きな課題となっている。省エネルギー建築が有すべき躯体熱性能や高効率設備、および環境負荷を低減させるまちづくりについて、最新の事例を通じて学ぶとともに、建築・都市の価値や評価尺度を考える機会とし、将来建築技術者として業務に取り組む上での意欲向上に資することを目標とする。</p> | |
| | 建築総合演習 A | ○ | <p>建築の構造・環境領域における総合演習を行う。構造・環境の横断領域における総合的な実験や演習を通して、快適な居住環境を実現するための技術や安全・安心のための技術を学び、より良い建築空間の計画・設計能力を身に付ける。また、これらの技術が実際の社会に対してどのように関わっているかを地域における事例を通して学ぶことで理解を深める。</p> | |
| | 建築総合演習 B | ○ | <p>建築の構造・環境領域における総合演習を行う。建築に関わる物理現象を理解すると同時に、専門的な環境測定技術や構造設計の手法を学び、それを実務に応用できる能力を身に付ける。さらに実験・演習の過程を通して、実際の設計において遭遇する様々な問題を発見し、その解決策を立案できる能力を身に付ける。また、これらの技術が実際の社会に対してどのように関わっているかを地域における事例を通して学ぶことで理解を深める。</p> | |
| 専門プロジェクト | イノベーション基礎 | ○ | <p>社会情勢や自然環境が大きく変化する現代において、未来を展望する技術革新や構造改革が望まれている。本学では「深遠な技術革新」を建学の綱領に掲げ、技術や仕組みを開発・統合して、これまでのモノやシステムに対して新たな価値を創出し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。そのため、この科目では、顧客のニーズを捉えて、イノベーションを生み出すための基礎力を養うことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全7回)</p> <p>(9. 山岸 邦彰／1回) 本講義の導入、統括を担当 (40. 西村 督・134. 河原 大・9. 山岸 邦彰・6. 佐藤 弘美／3回) (共同) 建築構造分野におけるイノベーション事例紹介を担当 (13. 須田 達／1回) 構法・材料分野におけるイノベーション事例紹介を担当 (1. 垂水 弘夫・2. 永野 紳一郎／1回) (共同) 建築設備分野におけるイノベーション事例紹介を担当 (3. 土田 義郎・5. 円井 基史／1回) 建築環境分野におけるイノベーション事例紹介を担当</p> | |
| | 専門ゼミ | ○ | <p>プロジェクトデザインⅢは、学科の目標である「建築および都市の各分野に関するより高度な専門的知識を持ち、それを実務に応用できる」能力を養成するための集大成の科目であり、将来実社会での活動の中心となるであろうプロジェクト活動を体験する場でもある。専門ゼミでは、このプロジェクトデザインⅢのプロジェクト遂行上必要となる、これまでの講義などで必ずしも十分ではなかった知識や技能を取得し、第7期からプロジェクトデザインⅢが自主的に実施できるように、その基礎となる学力や技術力を養うことを目的とする。</p> | |
| | プロジェクトデザインⅢ | ○ | <p>建築および都市の各分野に関するより高度な専門的知識を持ち、それを実務に応用できる能力の養成を主眼とする。将来実社会での活動の中心となるであろうプロジェクト活動を通して、建築学関連分野での問題発見や解決方法を自ら見出せる能力を身につける。</p> | |

| | | | | |
|-----|-----------|---|---|--------------------|
| その他 | 進路セミナー I | - | <p>自分の将来の進路、技術者としての職業観の形成を計るとともに、自分に適した進学・就職の目標を設定すること、その目標を達成するために必要な準備・対策に自主的かつ意欲的に取り組むことを目的とする。進路担当教員や先輩の講演、インターンシップやオープンデスクなどを通して職業に対する意識向上を計り、自分に適した進路の在り方を探究する。資格取得、一般常識、総合適性検査（SPI）など準備・対策に比較的長期を要する課題に計画を立てて着手する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3. 土田 義郎／5回) ガイダンス、就職ノート配布、教員講話、企業情報検索、内定を得た先輩の就活、レポート、自己点検、教員講話を実施する。 (3. 土田 義郎／1回) 建築ができるプロセスと建築業界の仕組み、レポートを実施する。 (4. 西村 督・3. 土田 義郎／4回) (共同) 就職ノート解説と自己分析(就職ノート持参)、過去の入社試験、レポート、建築に関わる資格、建築系学生の進路(昨年の実績)、インターンシップ募集企業紹介(予定)を実施する。 (4. 西村 督／1回) 内定状況の紹介を実施する。 (13. 須田 達／4回) SPI 試験、レポートを実施する。</p> | オムニバス方式・共同 (一部) |
| | 進路セミナー II | - | <p>進学・就職の目標を明確にするとともに、その目標を実現するために、自己発掘と自己啓発による人間形成と基礎学力の向上を図ることを目的とする。自己分析や企業研究をとおし、職業観を明確にするとともに、自ら進学・就職の進路決定や能力・適性に応じた職種や企業の選択ができるようにする。進学および志望する職種、企業で要求される適性、学力、素養、資格を調査・研究し、その対策・準備として、自ら一層の向上を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3. 土田 義郎・8. 佐藤 考一・13. 須田 達・4. 西村 督・12. 山田 圭二郎／2回) (共同) 授業計画の説明、人生設計、業界選択、大学院進学のため(1回目)、インターンシップの体験談、今後の就職活動にあたっての説明を行う。 (3. 土田 義郎／6回) 自己紹介書の指導(企業情報検索サービス、就職ノート活用)、自己アピールシート出題、大学院進学のため(2回目)、先輩の体験談、進路開発センター職員による面接指導、自己アピールシートについて実施する。 (8. 佐藤 考一／4回) SPI試験を実施し適性についての説明を行う。 (3. 土田 義郎・4. 西村 督／1回) (共同) 学内外の受験情報、進路関連資料の説明、証明書発行手順・推薦企業、大学院入試、学内セミナーについて実施する。 (13. 須田 達／2回) SPI試験を実施し適性についての説明を行う。</p> | オムニバス方式・共同 (一部) |

学校法人金沢工業大学 学部等の設置に関わる組織の移行表

| 令和6年度 | 入学 定員 | 編入学 定員 | 収容 定員 | 令和7年度 | 入学 定員 | 編入学 定員 | 収容 定員 | 変更の事由 |
|-------------------|----------|-----------|----------|-------------------|----------|-----------|----------|----------------|
| 金沢工業大学 | | | | 金沢工業大学 | | | | |
| 工学部 | | | | 工学部 | | | | |
| 機械工学科 | 200 | - | 800 | 0 | - | 0 | 0 | 令和7年度4月学生募集停止 |
| | | | | 機械工学科 | 120 | - | 480 | 学科の設置(届出) |
| | | | | 先進機械システム工学科 | 60 | - | 240 | 学科の設置(届出) |
| 航空システム工学科 | 60 | - | 240 | 航空宇宙工学科 | 60 | - | 240 | 名称変更 |
| ロボティクス学科 | 100 | - | 400 | | 0 | - | 0 | 令和7年度4月学生募集停止 |
| 電気電子工学科 | 220 | - | 880 | | 0 | - | 0 | 令和7年度4月学生募集停止 |
| | | | | 電気エネルギーシステム工学科 | 100 | - | 400 | 学科の設置(届出) |
| | | | | 電子情報システム工学科 | 100 | - | 400 | 学科の設置(届出) |
| 情報工学科 | 200 | - | 800 | | 0 | - | 0 | 令和7年度4月学生募集停止 |
| 環境土木工学科 | 100 | - | 400 | 環境土木工学科 | 80 | - | 320 | 定員変更(Δ20) |
| | | | | 情報理工学部 | | | | 学部の設置(届出) |
| | | | | 情報工学科 | 120 | - | 480 | |
| | | | | 知能情報システム学科 | 120 | - | 480 | |
| | | | | ロボティクス学科 | 80 | - | 320 | |
| 情報フロンティア学部 | | | | | | | | |
| メディア情報学科 | 120 | - | 480 | | 0 | - | 0 | 令和7年度4月学生募集停止 |
| 経営情報学科 | 60 | - | 240 | | 0 | - | 0 | 令和7年度4月学生募集停止 |
| 心理科学科 | 60 | - | 240 | | 0 | - | 0 | 令和7年度4月学生募集停止 |
| | | | | メディア情報学部 | | | | 学部の設置(届出) |
| | | | | メディア情報学科 | 140 | - | 560 | |
| | | | | 心理情報デザイン学科 | 60 | - | 240 | |
| | | | | 情報デザイン学部 | | | | 学部の設置(届出) |
| | | | | 経営情報学科 | 60 | - | 240 | |
| | | | | 環境デザイン創成学科 | 40 | - | 160 | |
| 建築学部 | | | | 建築学部 | | | | |
| 建築学科 | 200 | - | 800 | | 0 | - | 0 | 令和7年度4月学生募集停止 |
| | | | | 建築デザイン学科 | 100 | - | 400 | 学科の設置(届出) |
| | | | | 建築学科 | 100 | - | 400 | 学科の設置(届出) |
| バイオ・化学部 | | | | バイオ・化学部 | | | | |
| 応用化学科 | 80 | - | 320 | 環境・応用化学科 | 70 | - | 280 | 名称変更・定員変更(Δ10) |
| 応用バイオ学科 | 80 | - | 320 | 生命・応用バイオ学科 | 70 | - | 280 | 名称変更・定員変更(Δ10) |
| 計 | 1480 | - | 5920 | 計 | 1480 | - | 5920 | |
| 金沢工業大学大学院 | | | | 金沢工業大学大学院 | | | | |
| 工学研究科 | | | | 工学研究科 | | | | |
| 機械工学専攻(M) | 18 | - | 36 | 機械工学専攻(M) | 18 | - | 36 | |
| 機械工学専攻(D) | 5 | - | 15 | 機械工学専攻(D) | 5 | - | 15 | |
| 環境土木工学専攻(M) | 10 | - | 20 | 環境土木工学専攻(M) | 10 | - | 20 | |
| 環境土木工学専攻(D) | 5 | - | 15 | 環境土木工学専攻(D) | 5 | - | 15 | |
| 情報工学専攻(M) | 18 | - | 36 | 情報工学専攻(M) | 18 | - | 36 | |
| 情報工学専攻(D) | 5 | - | 15 | 情報工学専攻(D) | 5 | - | 15 | |
| 電気電子工学専攻(M) | 18 | - | 36 | 電気電子工学専攻(M) | 18 | - | 36 | |
| 電気電子工学専攻(D) | 6 | - | 18 | 電気電子工学専攻(D) | 6 | - | 18 | |
| システム設計工学専攻(M) | 8 | - | 16 | システム設計工学専攻(M) | 8 | - | 16 | |
| システム設計工学専攻(D) | 6 | - | 18 | システム設計工学専攻(D) | 6 | - | 18 | |
| バイオ・化学専攻(M) | 18 | - | 36 | バイオ・化学専攻(M) | 18 | - | 36 | |
| バイオ・化学専攻(D) | 6 | - | 18 | バイオ・化学専攻(D) | 6 | - | 18 | |
| 建築学専攻(M) | 16 | - | 32 | 建築学専攻(M) | 16 | - | 32 | |
| 建築学専攻(D) | 5 | - | 15 | 建築学専攻(D) | 5 | - | 15 | |
| 高信頼ものづくり専攻(1年制M) | 4 | - | 4 | 高信頼ものづくり専攻(1年制M) | 4 | - | 4 | |
| 高信頼ものづくり専攻(M) | 3 | - | 6 | 高信頼ものづくり専攻(M) | 3 | - | 6 | |
| 高信頼ものづくり専攻(D) | 5 | - | 15 | 高信頼ものづくり専攻(D) | 5 | - | 15 | |
| ビジネスアーキテクト専攻(M) | 6 | - | 12 | ビジネスアーキテクト専攻(M) | 6 | - | 12 | |
| | | | | | | | | |
| 心理科学研究科 | | | | 心理科学研究科 | | | | |
| 臨床心理学専攻(M) | 6 | - | 12 | 臨床心理学専攻(M) | 6 | - | 12 | |
| イノベーション研究科 | | | | イノベーション研究科 | | | | |
| イノベーション専攻(1年制M) | 40 | - | 40 | イノベーション専攻(1年制M) | 40 | - | 40 | |
| 計 | 208 | - | 415 | 計 | 208 | - | 415 | |
| 国際高等専門学校 | | | | 国際高等専門学校 | | | | |
| 国際理工学科 | 35 | | 175 | 国際理工学科 | 35 | | 175 | |
| 計 | 35 | | 175 | 計 | 35 | | 175 | |